



reference  
**manual.**

# 目次

1. イントロダクション	3	3.8.7 モードのプリセット	25
1.1 アップデートについて	4	3.8.8 シーンのプリセット	25
1.2 概要	5	3.9 グローバル・クロック	26
1.3 ハードウェアとソフトウェアの通信	5	3.10 新機能	26
1.4 本マニュアルについて	5	3.11 その他	27
1.5 最低動作環境	5	3.12 Elite設定	27
1.6 ライセンスと権利について	6	3.13 パッド動作モード	28
2. インストールとアンインストール	7	3.14 MIDI プレッシャーモード	28
3. AlphaLiveを使用する	10	3.15 エフェクト	29
3.1 コンセプト	11	3.15.1 ゲインとパン	29
3.2 機能概要	11	3.15.2 フィルター	29
3.3 インターフェイスの概要	12	3.15.3 ディストーション	29
3.4 共通の操作	12	3.15.4 ビットクラッシャー	30
3.5 パッドレイアウト	13	3.15.5 ディレイ	30
3.5.1 パッドの選択	13	3.15.6 リバーブ	30
3.5.2 ビジュアル・フィードバック	13	3.15.7 フランジャー/フェイザー	30
3.5.3 パッド圧のエミュレーション	13	3.15.8 トレモロ	30
3.6 パッド設定	14	3.16 メニュー・バー	31
3.6.1 MIDIモード	15	3.16.1 初期設定/環境設定	32
3.6.1.1 MIDI ダイナミック・チャンネル・モード	15	3.16.1.1 オーディオ出力設定	32
3.6.2 サンプラー・モード	16	3.16.1.2 環境設定	33
3.6.3 シーケンサー・モード	17	3.16.1.3 ハードウェア設定	33
3.6.3.1 MIDIシーケンサー・モード	19	3.16.2 プロジェクト設定	34
3.6.3.2 Audioシーケンサー・モード	20	3.16.2.1 ソフトウェア設定	34
3.6.3.3 シーケンスの記録	20	3.16.2.2 ハードウェア設定	34
3.6.3.4 MIDIファイルの読み込み/書き出し	21	4. LED設定とコントロール	35
3.6.4 コントローラー・モード	22	4.1 静的な色	35
3.6.4.1 プレッシャー・ラッチモード	22	4.2 相互作用の設定	35
3.6.5 グローバル・パッド設定	23	4.3 MIDI CCコントロールモード	35
3.7 Piano	24	5. トラブルシューティング/サポート	36
3.7.1 MIDIモード	24	6. 用語集	37
3.7.2 シーケンサー・モード	24	6.1 MIDI	38
3.8 Toolbox	25	6.2 Open Sound Control	40
3.8.1 サンプル	25	6.3 その他	40
3.8.2 バンク	25	7. クレジット	40
3.8.3 スケール	25	8. 付録	41
3.8.4 レイアウト	25	8.1 ノート・レイアウト	42
3.8.5 シーケンス	25	8.2 GM ドラムマッピング	45
3.8.6 エフェクト	25	8.3 Open Sound Control アドレス設定	45
		8.4 MIDI 入力メッセージ	46
		8.5 パッド内容の省略表示	47
		8.6 キーボード・ショートカット	48

# イントロダクション



# アップデートについて。

AlphaLiveは定期的にリリースされるアップデートで、新機能の追加と機能改善がされています。以下は、このマニュアル内でこれらの機能を使用する方法を学ぶことができるリンクと、各アップデートに含まれる新機能や機能改善の内容です。AlphaLiveを更新する方法については、このマニュアルの「アップデート」セクションを参照してください。



## Version 1.3.0

- AlphaSphereのLED構成と制御 - LEDの色と明るさをカスタマイズし、制御することができます。「AlphaSphereのLEDの構成制御」ページ上のセクションを参照してください。
- MIDIダイナミックチャンネル・モード - ノートを個別に調節することができるよう、押されたときに動的にパッドに独自のMIDIチャンネルを割り当てます。ページ上の「MIDIダイナミックチャンネル・モード」の項を参照してください。
- MIDIクロック - 外部MIDIハードウェアとソフトウェアとの同期するためのMIDIクロックを送受信します。ページ上の「プロジェクトの設定」の項を参照してください。
- プレッシャー・ラッチ・モード - パッドのプレッシャー値を固定(ラッチ)することができます。従来はパッドを離すと値がゼロに戻る制御でしたが、ラッチモードが搭載されることでプレイの幅が広がります。ページ上の「プレッシャー・ラッチ・モード」の項を参照してください。
- AlphaSphere/AlphaLiveで現在のシーン番号を変更するMIDIプログラムチェンジメッセージを送信することができます。
- 「表示」メニューを追加しました。ページ上の「メニューバー」の項を参照してください。
- 特定チャンネルのMIDIチャンネル・プレッシャーいつでも制御できるようにするオプションを追加。「設定」セクションを参照してください。

## Version 1.2.0

- インターフェイスのテーマ - ソフトウェアインターフェイスのスキンや配色を変更することができます。ページ上の「設定」セクションを参照してください。
- シーンのプリセット - ツールボックスはパッドにテンプレートのマッピングや設定を適用することを可能にする「シーンプリセット」タブが含まれています。ページ上の「シーンプリセット」セクションを参照してください。
- シーン名 - 各シーンに名前を付けることができます。ページ上の「シーンコンポーネント」のセクションを参照してください。
- コピー ノート/サンプル - シーケンサーパッドにMIDIパッドノートやサンプラー・パッドサンプルのセットを適用することが簡単になりました。ページ上の「コーディング・シーケンス」のセクションを参照してください。
- コントローラモードを使用してキルスイッチのように任

意のパッドを設定することができます。

## Version 1.1.2

- 現在選択されているパッドをクリックすることで別のパッドの設定ビュー(トリガ/タッチの設定、圧力設定、シークエンスの設定)を切り替えることができます。
- Windowsのメニューバーには「ファイル」メニューから「終了」オプションが追加されました。

## Version 1.1.1

- テキストボックスのスライダコントロールは、矢印ボタンをクリックすることで編集することができます。ページ上の「コモンコントロール」セクションを参照してください。

## Version 1.1.0

- ソフトウェアアップデートチェック - AlphaLiveから直接アップデートを確認することができます。ページ上の「アップデート」セクションを参照してください。
- ベロシティ・レンジ - 各パッドにベロシティの範囲を設定することができます。ページ上の「グローバルパッド設定」の項を参照してください。
- 「メトロノーム」と「シーケンサー・レコード」 - AlphaSphere Eliteのみの新オプション。「エリートのコントロール」セクションを参照してください。
- 「スマートダイヤル」と「テンポ」 - AlphaSphere Eliteのみの新オプション。「エリートのコントロール」セクションを参照してください。
- 視覚的なフィードバック - AlphaSphere Eliteのみの新オプション。

# 概要

AlphaLiveはAlphaSphereを楽器／コントローラとして多目的に使うための専用アプリケーションです。各パッドに対し様々なモードや設定を割り当てることができます。グループ単位で設定が行えるなど非常に高いカスタマイズ性を特徴とします。

主な機能は以下の通り：

- ・ MIDIマッピング・エディター、サンプラー、シーケンサー、Open Sound Controlコンバータ・スケールなどに基づいたノートのマッピング。
- ・ 高度にプログラム可能 - パッドを個別またはグループ単位で設定可能。様々なパッド設定が混在した状態で使用できます。
- ・ ポリフォニック＆アフタータッチ可能なマルチ・チャンネルMIDIデバイスとして使用可能。
- ・ 魅力的で直感的なインターフェイス - ドラッグ＆ドロップ、プリセット、サンプル・バンク、プリメイド・シーケンスなどを用いて簡単に設定可能。
- ・ ライブ・パフォーマンスで真価を発揮 - プレイバック・クオンタイズ、簡単なシーン切替、パッドごとの状態をリアルタイムに反映などの機能を搭載。
- ・ フィルターやエフェクトを各サンプルに対しリアルタイムにかけることが可能。

## ハードウェアとソフトウェアの通信

コンピューターにAlphaSphereを接続すると、標準的なUSB MIDIデバイスとして認識されます。AlphaLiveはAlphaSphereからの信号を常に監視し、それに従ってMIDIメッセージを直接生成します。AlphaSphereとAlphaLiveを最大限活用するためにサードパーティ製DAW、MIDIシーケンサー、MIDI対応ソフトウェア・シンセサイザーなどを使用することをおすすめします。

Mac OSXの場合、AlphaSphereを接続せずにAlphaLiveを起動すると「AlphaLive」という仮想MIDIデバイスが作成されます。この仮想デバイスを用いることでAlphaSphereを使わずにAlphaLiveからMIDIシーケンサーにMIDIメッセージを送信することができます。

Windowsの場合、仮想MIDIデバイスはOSでサポートされていません。AlphaSphereを接続せずにAlphaLiveを起動した場合、AlphaLiveをMIDI出力デバイスに接続するオプションが追加されます。「loopMIDI」などの仮想MIDIポート・ソフトウェアを用いることでMIDIシーケンサーとAlphaLiveを接続することができます。

このときに後からAlphaSphereを接続すると仮想MIDIデバイスは削除されAlphaSphereとAlphaLiveのMIDI接続が確立されます。

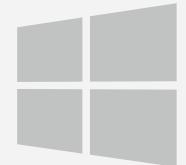
## 本マニュアルについて

本マニュアルではAlphaLiveの使い方および、MIDI／OSC対応ソフトウェアとAlphaSphereとの連携方法を解説します。マニュアルの大半はAlphaLiveのユーザー・インターフェイスと機能について解説しています。マニュアルの後半には本マニュアルで使用される用語がまとめられています。また本製品を理解する手助けとなる回路図や表が付録として掲載されています。



Mac OS X

- ・ Intel製CPU、OS X 10.5以降
- ・ クロック周波数2GHz以上
- ・ 1GB以上のメモリ
- ・ 50MB以上のHD空き領域(サンプル・ライブラリをインストールする場合は1GBの追加容量)



Windows

- ・ Windows XP SP3以上
- ・ クロック周波数2GHz以上
- ・ 1GB以上のメモリ
- ・ 50MB以上のHD空き領域(サンプル・ライブラリをインストールする場合は1GBの追加容量)
- ・ ASIO(推奨)、Direct Sound、WASAPIのオーディオ・ドライバーをサポートお使いのサウンド・カードがASIOをネイティブ・サポートしない場合、ユニバーサルASIOドライバー「ASIO4ALL」を試してみると良いでしょう。

上記のシステム要件を満たさない場合は全ての機能を使用できない恐れがあります。オーディオ・エフェクトやシーケンスなどCPU負荷のかかる処理を行なうにはスペックの高いコンピューターが必要です。AlphaSphereとAlphaLiveを最大限活用するためにはサードパーティ製DAW、MIDIシーケンサー、MIDI対応ソフトウェア・シンセサイザーなどを使用することをおすすめします。

# ライセンスと権利について

このマニュアルはAlphaLive 1.3.0のマニュアルとなります。

AlphaLiveはGNU Gereal Public License version2.0以下でリリースされたオープンソースのアプリケーションです。AlphaSphere GNU Gereal Public License version3.0以下でリリースされたオープンソースのアプリケーションです。これらのソースはこちらで公開されています。 <https://github.com/nu-desine>

これらの情報は予告無しに変更されることがあります。NuDesine及びディリゲントはこれに一切関与いたしません

ASIO, VSTi,Cubase は Steinberg Media Technologies GmbH.の登録商標です。 RTASとPro Toolsは Avid Technology, Inc.及びその他の地域での登録商標です。 Mac, Mac OS X, Quartz Composer, Logic Pro , Audio Units はApple Incの登録商標です。 Windows, Windows XP, Windows Vista, Windows7,Windows 8, DirectSound , WASAPI は Microsoft.の登録商標です。 Digital Performer はMark Of The Unicorn (MOTU)の登録商標です。 Reaktorは Native Instruments GmbHの登録商標です。 REAPER Cockos Incorporated.の登録商標です。 VirtualDJ はAtomix Productionsの登録商標です。 Max/MSPはCycling '74の登録商標です。 Ableton Live は Ableton Incの登録商標です。 Reason Propellerhead Softwareの登録商標です。 FL Studio はImage-Lineの登録商標です。 Intel とPentium はIntel Corporation.の登録商標です。本マニュアルに記載される全ての製品名および社名は各社の商標及び登録商標です。

## LUFA License

LUFA Library - Copyright (C) Dean Camera, 2013.  
dean [at] fourwalledcubicle [dot] com  
[www.lufa-lib.org](http://www.lufa-lib.org)

使用許諾について。ライセンスの授与者による書面での許可がない限り、ソフトウェアの複製、翻訳（電子的転送を含む）、適応、変更または修正を行うことはできません。また、ソフトウェアを第三者に通信することはできません。  
本ライセンスのすべてのコピーに対して、ライセンス授与者の著作権表記を複製し含めます。このコピーは、それが全体、部分にかかわらず、あらゆる形式を指し、このソフトウェアの一部を修正したもののコピーが含まれます。

ライセンス授与者の書面での許可がない限り、このソフトウェアの全部または一部を（これはプログラムリスト、オブジェクトコード、およびソースプログラムリスト、オブジェクトコードおよびソースコードにも適用されるが、それらに限らない）、ライセンス取得者の従業員または指定された者を除く第三者に対して、いかなる形式においても提供または入手可能にすることはできません。

本ライセンスを使用して制作された作品による損害賠償は弊社は一切の責任を負いません。



# installation / uninstallation.



# インストール

ドライバーをインストールする際は必ずAlphaSphereをコンピューターに接続してから行ってください。Windowsマシンに最初にAlphaSphereを接続するとOSは自動的に必要なドライバーをインストールします。この際インターネットに接続されている必要がありますが、数分の時間を要します。コンピューターの再起動を要求される場合があります。Macの場合AlphaSphereはプラグ&プレイ・デバイスとして認識されます。

AlphaLiveのインストールは簡単です。Mac OSXの場合「AlphaLive.dmg」をダブル・クリックして開かれるフォルダを中身ごとApplicationsフォルダーにコピーします。Windowsの場合「AlphaLive installer.exe」をダブル・クリックし画面の指示に従ってください。アプリケーションを最初に起動するとドキュメント・フォルダーに「AlphaLive Projects」というディレクトリ(フォルダー)が生成されます。プロジェクトを保存するデフォルトの場所となります。

AlphaLive.app/AlphaLive.exeや同階層のファイル/フォルダを移動させたりファイル名を変更したりしないでください。ソフトウェアが正常に機能しなくなる恐れがあります。オーソライズの必要はありません。AlphaLiveはシリアル番号の入力やレジストレーション処理なしに実行できます。

Mac OS X LionおよびMountain Lionをお使いの場合、「開発元が未確認のため開けません。」のメッセージが表示されアプリケーションが起動できない場合があります。これはOS搭載のゲートキーパーと呼ばれるセキュリティ機能です。解決には2通りの方法があります：

- ・「システム環境設定」->「セキュリティとプライバシー」の「一般」タブ内「ダウンロードしたアプリケーションの実行許可」で「すべてのアプリケーションを許可」をチェックします。

- ・システムのセキュリティ設定を変更たくない場合はAlphaLiveアプリケーションをCtrlを押しながらクリックし「開く」を選択します。これによりゲートキーパーを通さずに起動することができます。

ゲートキーパーに関する詳細は  
<http://support.apple.com/kb/HT5290> を参照してください

# アップデート方法

ださい。

AlphaLiveの最新版を最初に起動する場合、ファームウェアの更新が必要とのメッセージが表示されることがあります。その場合ファームウェアの更新を必ず行ってください。AlphaLiveの新機能を使うには最新のファームウェアが必要な場合があります。「OK」を押しファームウェアの更新を実行します。更新中はAlphaSphereをコンピューターに接続したままにしてください。

AlphaLiveから直接ソフトウェアの更新を確認することができます[ヘルプ] -> [アップデートの確認]をご利用ください。この機能を使用する際にはインターネットに接続している必要があります。手動でインストールを行いたい場合は、ウェブブラウザでアクセスして [http://www.alphasphere.com/AlphaLive\\_Update.zip](http://www.alphasphere.com/AlphaLive_Update.zip) よりインストーラをダウンロードして、インストールします。

AlphaLiveの最新版を起動すると、警告ウィンドウが表示され、最新のファームウェアの更新が必要であることを示します。正常な動作をするために常に最新のファームウェアとアップデートを適用することをお勧めします。ファームウェアを更新するには、下記をご参考ください。

- 1.お使いのコンピュータからAlphaSphereの接続を解除します。
- 2.AlphaSphereリセットボタンを押しながら、コンピュータにAlphaSphereを再接続します。AlphaSphere LEDが赤く点滅したら、リセットボタンを放してください。(反応がない場合は再試行してください。)
- 3.「OK」をクリックしてすると、警告ウィンドウが表示されます。数秒後にAlphaSphereのLEDデフォルトに戻り、ファームウェアが更新されたことを警告ウィンドウが表示します。

# アンインストール

Mac OS XでAlphaLiveをアンインストールするにはApplicationsフォルダ内の「AlphaLive」フォルダを削除してください。Windowsの場合はスタートメニューの「AlphaLive」内にある「uninstall AlphaLive.exe」を起動してください。以下のファイル／フォルダは手動で削除する必要があります。

Mac OS X:

- ・ “[user]/Library/Application Support/AlphaLive”
- ・ “[user]/Library/Preferences/com.nu\_desine.AlphaLive”
- ・ “[user]/Library/Caches/AlphaLive”, if it exists.
- ・ “[user]/Documents/AlphaLive Projects”  
(またはユーザー指定のプロジェクト・フォルダ) プロジェクトを消去したくない場合はこのディレクトリーは削除しないでください。

Windows XP:

- ・ “C:\Documents and Settings\[user]\Application Data\AlphaLive”
- ・ “C:\Documents and Settings\[user]\LocalSettings\Temp\AlphaLive”, if it exists.
- ・ “C:\Documents and Settings\[user]\My Documents\AlphaLive Projects”

Windows Vista 以降:

- ・ “C:\Users\[user]\AppData\Roaming\AlphaLive”
- ・ “C:\Users\[user]\AppData\Local\Temp\AlphaLive”, if it exists.
- ・ “C:\Users\[user]\Documents\AlphaLiveProjects”  
(またはユーザー指定のプロジェクト・フォルダー) プロジェクトを消去したくない場合はこのディレクトリーは削除しないでください。



# AlphaLiveを使う.

このセクションではAlphaLiveの使い方とコントロール方法について解説します。



# 機能の概要

AlphaLiveではMIDIコントローラ・モード、サンプラー・モード、シーケンサー・モードという3つの基本モードをパッドに割り当てた上で操作を行います。もう一つのモードであるコントローラ・モードを用いることでシーンの切替えやOSC出力などの機能を使うことも可能です。またAlphaLiveでは各パッドがどのような処理を行うかを細かく設定することができます。サンプルやシーケンス、MIDIノートのトリガー、サンプルに対する10種類のオーディオ・エフェクト、プレイバック・タイミングやエフェクトのクオンタイズなどの設定も可能です。

## MIDIモード

AlphaSphereをMIDIモードにするとDAWやMIDIソフトウェア音源のMIDIデバイスとして使用することができます。この場合AlphaLiveは各パッドのMIDI機能を設定するMIDIマッピング・エディターとして使用されます。MIDIモードはパッドを押しした際のノート・オン／オフ・データと、パッドの圧力による連続するメッセージの2種類のMIDIメッセージを送信します。

## サンプラー・モード

サンプラー・モードはAlphaSphereをプレイバック・サンプラーとして使用するモードです。外部ソフトウェアを使わずにサンプルのトリガー、ループ、エフェクト処理が可能です。パッドの圧力をを利用してフィルタとエフェクトをリアルタイムにかけることができます。

## シーケンサー・モード

シーケンサー・モードはAlphaSphereをシーケンサーとして使用するモードです。各パッドに最大8トラックの32ステップMIDI(またはオーディオ)シーケンサーの機能を持たせることができます。ループ再生や編集も可能です。パッドの圧力により生成された連続するMIDIデータを用いてMIDIシーケンサーやオーディオ・エフェクトを操作することができます。またパッドの圧力によって複数のシーケンスを同一パッド内で個別にトリガーすることもでき、即興的な演奏を行うことが可能です。AlphaLive内でシーケンスを作成できるだけでなくMIDIファイルのインポートにも対応しています。またシーケンスはMIDIファイルとして書き出し、外部MIDIシーケンサーで読み込むこともできます。

AlphaLiveとAlphaSphereのシステムは、各パッドにそれぞれ異なる機能を設定し、それそれを完全に独立して機能させるというコンセプトで作られています。各パッドのモードを自由に設定することができ、カスタマイズ性の高いシステムを作ることができます。

AlphaLiveの基本的な操作手順は以下の通りです:

1. パッド・レイアウト・セクションから任意のパッドを選択します。(複数選択可能)
2. 選択したパッドのモードを選び、パッド設定セクションまたはツールボックス・セクションの設定をします。

AlphaSphereの設定は、設定したいパッドを選択し、そのパッド設定を変更するという流れを繰り返して行います。パッドを選択すると現在のパッド設定が表示されます。表示された設定を変更すると選択中の全てのパッドの設定が変更されます。複数のパッド選択時は、各パッドで同じ値のパラメータのみが表示されます。それ以外のパッドは何も表示されないか、デフォルト設定が表示されます。

# インターフェイスの概要

- パッド・レイアウト - このセクションではAlphaSphereハードウェアのパッドが2次元に表示されます。AlphaSphereを上から眺め、パッドを平面に広げたレイアウトになります。このセクションは設定したいパッドを選択するために使用します。またAlphaSphere側でパッドを押すことで、AlphaLive画面上の対応するパッドが選択状態になります。パッドの圧力をソフトウェア上で表示することも可能です。
- パッド設定 - 選択されたパッドの機能の表示／変更を行うセクションです。上部のボタン列では選択したパッドのモードを設定します。その下の2つのボタンを用いて、モードの設定項目を切り替えることができます。
- ピアノ - 選択したパッドのMIDIノートを表示／変更することができる鍵盤です。マウスのコマンドを使用してノート・データの設定を行うことができます。
- ツールボックス - パッドに設定する様々な項目が表示されるセクションです。ここではオーディオ・サンプル、MIDIスケール／レイアウト、プリセットなどを設定できます。表示される項目は選択されたパッドのモードによって切り替わります。
- グローバル・クロック - AlphaLiveの内部クロックに関する設定を行います。サンプルやMIDI再生のクオントライズやシーケンスの録音などに関われます。
- シーン・スロット - 20個のスロットにパッド設定を記録することができます。シーンを使うことで設定を簡単に切り替えることができます。ライブ・パフォーマンスで真価を発揮するでしょう。
- 情報ボックス - マウス・カーソルを上に重ねた項目の説明が表示されます。
- その他 - 全体のゲインやパンなどのグローバル設定を行います。ファイルのオープンやセーブ用のボタンも搭載されています。
- Elite設定(AlphaSphere eliteモデルのみ)  
- AlphaSphere eliteモデルに搭載されるつまみとボタンの設定を行います。クリックするとパッド設定セクション内に各種設定が表示されます。

AlphaLiveのインターフェイスは大きく8つのセクションに分類されます。(AlphaSphere eliteを使用する場合は9つ)



## 共通の操作



テキスト・ボックス・スライダー - 数値入力も可能な縦方向のスライダーです。クリックし垂直方向にドラッグすることでスライダー値を変更できます。数値をダブルクリックし、直接値を入力することも可能です。



ロータリー・スライダー - 通常のロータリー・ダイアルと同等の機能です。クリックしてからドラッグすることで値を変更することができます。右クリック(Macの場合Ctrl+クリック)で表示されるテキスト・ボックスに数値を入力することでスライダー値を変更することも可能です。

## パッドの選択

パッドを選択すると、パッド設定セクションに設定が表示され、設定の変更を行えます。ツールボックスにはパッドに設定可能な項目が表示されます。パッド選択では以下の操作が可能です。

- ・ 単一のパッドをクリックし、そのパッドの設定を行います。
- ・ 隣接するパッド間の背景部分をクリックすることで特定の列全体を選択し、設定します。
- ・ 中心のロゴをクリックすることで全てのパッドを選択し、パッド全体の設定をします。
- ・ パッド・レイアウト画面の外側をクリックするとパッドの選択が解除されます。
- ・ Macの場合はCmd+クリック、Windowsの場合はCtrl+クリックすることで任意のパッドを複数選択できます。パッドの複数選択は上で述べた単一、列、全体のパッドの選択方法全てで使用可能で。選択されたパッドを再度クリックすることで選択を解除することができます。
- ・ Shift+クリックでパッドのグループ選択ができます。最後にクリックされたパッドのパッド番号と、その次にクリックされたパッドのパッド番号間に属する全てのパッドが選択されます。パッドのグループ選択は上で述べた単一、列、全体のパッドの選択方法全てで使用可能で。
- ・ 右クリック(Macの場合Ctrl+クリック)すると表示されるメニューからパッド設定のコピー／ペーストができます。
- ・ 複数のパッド選択時は、各パッドの値が同じ設定のみがパッド設定セクションに表示されます。それ以外のパッドは何も表示されないか、デフォルト設定が表示されます。

## ビジュアル・フィードバック

画面上のバーチャル・パッドは以下の情報を表示します:

- ・ パッドの圧力 - AlphaSphereのパッドを押すとAlphaLive上の該当するパッドの表示が圧力によって徐々に変化します。
- ・ パッドの状態 - パッドがアクティブな状態(ノート、サンプル、シーケンス再生時など)のときはパッドの外周が以下の法則に基づいて色づきます。
  - 赤 - 再生中
  - 黄 - 再生待機(クオントライズ・プレイバック使用時)
  - オレンジ - 停止待機(クオントライズ・プレイバック使用時)
- ・ パッド・モード - 各パッドにはモードによって色がつけており、設定されているモードが一目で確認できます。
  - 緑 - MIDIモード
  - 黄 - サンプラー・モード
  - 赤 - シーケンサー・モード
  - 紫 - コントローラ・モード

## パッド圧のエミュレーション

パッドをAlt+クリックしてから上下にドラッグすることでハードウェアでのパッドの圧力をソフトウェア上で再現することができます。AlphaSphereを接続せずにAlphaLiveの設定を行う際に便利です。

## パッドのレイアウト

パッド・レイアウト・セクションではAlphaSphereハードウェアのパッドが2次元に表示されます。AlphaSphereを上から眺め、パッドを平面に広げたレイアウトになります。AlphaLiveの中心ともいえる最も使用頻度の高いセクションです。起動直後はここから各種設定を始めます。

各パッドには番号が振られています。AlphaSphereハードウェアの一番下側のパッドから、反時計回りに上に向かって螺旋状に番号が増えていきます。同じ列でパッド番号が最後まで来ると、そのパッドの左上に位置するパッドが次の番号になります。このルールに基づいて各列のパッドに番号が振られます。スケールによるノート・レイアウトを使用する際に、直感的にパッドを扱うことが可能です。スケールごとのレイアウトに関する詳細は付録1を参照してください。

パッド・レイアウトには、パッドを選択して編集する、ビジュアル・フィードバックを表示する、パッド圧をソフトウェア上で再現する、という3つの主な機能が搭載されています。



1. オフ・モード - 選択中のパッドをオフ(無効)にすることができます。
2. MIDIモード - 選択中のパッドがMIDIパッドになります。パッドのタッチと圧力の情報は様々なMIDIデータとして送信することができます。
3. サンプラー・モード - 選択中のパッドがサンプラーになります。オーディオ・サンプルをトリガー、ループ再生し、パッド圧によってエフェクトをリアルタイムに変更することができます。
4. シーケンサー・モード - 選択中のパッドをシーケンサーとして使用できます。MIDIまたはオーディオのトリガー、ループ再生が可能なシーケンサーで、パッド圧によってMIDIデータやオーディオ・エフェクトをリアルタイムに変更することができます。
5. コントローラ・モード - Open Sound Controlメッセージ、シーンの変更、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージなど、パッドに様々な機能を加えることができます。
6. トリガー設定 - パッドのタッチに関する設定が表示されます。表示される設定内容はパッドのモードによって異なります。(MIDIノート・データ、オーディオ・サンプル、パッド動作設定など)
7. 圧力設定 - パッドの深さ/圧力に関する設定が表示されます。表示される設定内容はパッドのモードによって異なります。(MIDIプレッシャー・データ、サンプラー・エフェクト、プレッシャー・スケールなど)
8. 設定コントロール・セクション - 上で設定したモードの設定項目の多くが表示されるエリアです。
9. グローバル・パッド設定 - 全てのモードに共通の設定を行います。
10. クオンタイズ・ボタン - 設定されたクオンタイズ値にパッドをクオンタイズすることができます。クオンタイズ機能を用いるとパッドの発音タイミングを、設定された時間間隔の次のタイミングに合わせることができます。クオンタイズ機能はMIDIモード、サンプラー・モード、シーケンサー・モードで使用可能です。

パッド設定セクションにはパッドの全ての設定を表示/編集することができます。AlphaLiveの重要なセクションといえるでしょう。  
パッド設定では以下の設定を行うことができます。(次ページ):



- パッド動作ボタン - 本マニュアル内の各パッド動作モードのセクションを参照してください。
- ノート・ステータス・ボタン - 選択中のパッドがMIDIノート・オン／オフを送信するかどうかを設定します。
- 変更不可ボタン - このボタンをオンにするとパッドが変更できなくなります。エクスクルーシブ・グループまたはキル・スイッチでのみオフにすることができます。
- MIDIチャンネル・ボタン - 選択されたパッドのMIDIチャンネルを変更します。
- MIDI圧力モード・ボタン - 本マニュアルの各MIDI圧力ボタンのセクションを参照してください。
- 圧力状態ボタン - このボタンをオフにすると選択されたパッドの圧力データは無視されMIDIデータが送信されなくなります。
- 圧力範囲スライダ - パッドが送信するMIDIプレッシャーデータの最大値と最小値を設定します。
- ステッキー・ボタン - パッドが離され再度押されるまで圧力の値が最大値を維持するようになります。

MIDIノート・データの設定については、本マニュアルのピアノのセクションを参照してください。

## MIDIダイナミックチャンネルモード

MIDIダイナミックチャンネルモードは、複数のパッドが押されるように、個々のチャンネルにダイナミックなパッドに適用されることを可能にする機能です。この機能は、ポリフォニック・ピッチ・ベンドを作成するために使用することができ、またそれをサポートしていないMIDIソフトウェア内ポリフォニック・アフタータッチの代替として使用することができます。

この機能は、次のように動作します。- パッドが押されると独自のMIDIチャンネルにMIDIチャンネルに基づいて、グループを選択して割り当てられます。

パッドを押すと、ノートを押すとMIDIをオンに再プレスされる。割当てられたチャンネルはリリースとノートの変調を防ぐ

ために、既に使用されるチャンネルになります。ノートがオフになるまで、そのパッド(ノート・メッセージだけでなく、圧力によって送信されるメッセージ等)から送信されたすべてのMIDIメッセージは、新しく設定されたチャンネルに設定されます。この場合、圧力データを送信するMIDIパッドを使用できません。

この機能を利用するにはするあなたのDAW/MIDIシーケンサーに若干の変更が必要です:

- ポリフォニックピッチベンドにアクセスしたい場合、全てのMIDIチャンネルから信号を受信する必要があります。(多くのDAWや楽器で”オムニ入力”として知られています。)
- チャンネルアフタータッチ、モジュレーションホイールまたはCCメッセージを使用して個別にノートを変調するようにしたい場合は、お使いのDAW内で中には、トラック/インストゥルメントを何度も複製する必要があり、別々のMIDIチャンネルから信号を受信する必要があります。
- チャンネルを使用できるかを選択できるようにすると、DAW /プラグインの中にあなたのトラック/インストゥルメントを複製する回数を選択することができます。

トラックの数値が高いほど演奏し、個別に同時に変調されるより多くのノートが、CPUとRAMの負荷を増加させ、必要に応じてコンピュータをグレードアップする必要が出てきます。

パッドをMIDIモードにするとAlphaSphereをDAWやMIDIソフトウェア音源のMIDIデバイスとして使用することができます。このモードはMIDIデータを送信するだけですのでAlphaLiveによって音声信号は出力されません。本マニュアル用語集のMIDIのセクションを参照してください。

MIDIモードでは以下の設定を行うことができます。  
(次ページ):



- パッド動作ボタン - 本マニュアル内の各パッド動作モードのセクションを参照してください。
- Central Rotary Controls – This section contains ロータリー・コントロール - 回転式ダイアルで各設定の値を変更します。「+」、「-」ボタンで以下の5つの項目を切り替えて設定を行います。
  - ゲイン - オーディオ・サンプルのゲイン／ボリュームを設定します。
  - パン - オーディオ・サンプルのパンを設定します。
  - アタック・タイム - オーディオ・サンプルのアタック・タイムを設定します。アタック・タイムを設定するとサンプルにフェード・インの効果がかかります。
  - リリース・タイム - オーディオ・サンプルのリリース・タイムを変更します。リリース・タイムを設定するとサンプルにフェード・アウトの効果がかかります。
  - ポリフォニー - サンプルの同時発音数の最大値を設定します。
- オーディオ・ファイル選択 - パッドにアサインするオーディオ・ファイルを選択します。「+」ボタンを押すと表示されるダイアログからコンピュータ内のWAVまたはAIFFファイルを選択します。ドロップダウン・メニューで最近選択されたファイルを選択することも可能です。オーディオ・ファイルをパッド・レイアウト・セクションに直接ドラッグ＆ドロップすることでもサンプルのアサインを行うことができます。またパッドを右クリックすることで表示されるポップアップ・メニューの「オーディオサンプルをセットする」からも同様の操作が可能です。
- ループ・ボタン - オーディオ・サンプルをループ再生します。
- ループ終了ボタン - このボタンがオンのときにサンプル再生の停止が指示されると、現在再生中のループが終了した時点でサンプルの再生を終了します。
- 変更不可ボタン - このボタンをオンにするとパッドが変更できなくなります。エクスクルーシブ・グループまたはキル・スイッチでのみオフにすることができます。

サンプラーの圧力／エフェクト設定については本マニュアルのエフェクト・セクションをご覧ください。

サンプラー・モードはAlphaSphereをプレイバック・サンプラーとして使用するモードです。外部ソフトウェアを利用せずにAlphaLiveのみでサンプルのトリガー、ループ、エフェクト処理が可能です。

サンプラー・モードでは以下の設定を行うことができます。( 次ページ)



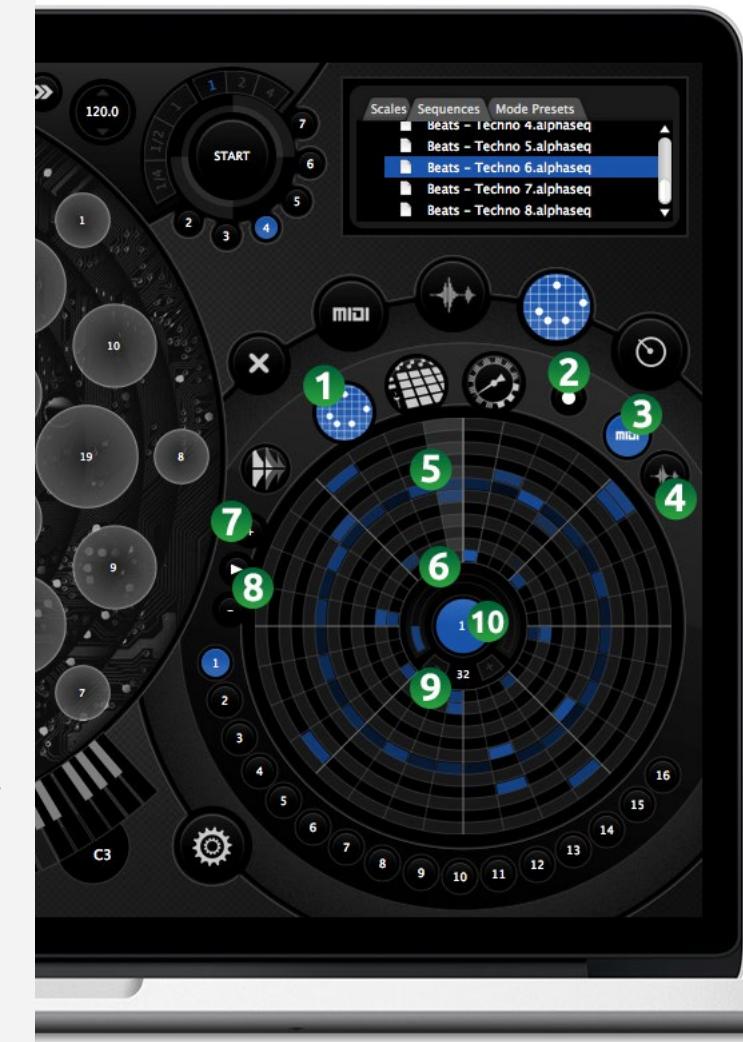
- シーケンス設定 - シーケンスのパターンとパラメータに関する全ての設定情報を表示します。
- レコード・ボタン - 対応するパッドのMIDIデータを記録します。本マニュアルの「シーケンスの記録」に関する解説を参照してください。
- MIDIシーケンサー・モード - パッドをMIDIシーケンサー・モードに切り替えます。対応するパッドのMIDIノート・データのシーケンスを記録、再生、編集できます。
- オーディオ・シーケンサー・モード - 対応するパッドをオーディオ・シーケンサー・モードに切り替えます。AlphaLiveに読み込まれたオーディオ・サンプルによって構成されるシーケンサーの記録、再生、編集が行えます。
- ステップ・シーケンサー・グリッド - シーケンスが表示されるセクションです。標準的なステップ・シーケンサーがサークル状に描かれており、12の縦列がそれぞれMIDIノートもしくはオーディオ・サンプルを表しています。横列は32ステップあり、1ステップが1/4拍子を表しています。空白のグリッドをクリックするとノート・オンが登録されます。もう一度クリックするとノートが削除されます。グリッドをAlt+クリックしてから垂直方向にドラッグするとMIDIベロシティやゲインを変更することができます。
- シーケンスの数 - このダイアルでパッドが保持するシーケンスの数を設定します。各パッドは最大8個のシーケンスを保持することができます。
- シーケンス番号セレクタ - 「+」と「-」ボタンを押すと表示されるシーケンスが切り替わります。選択中のシーケンス番号がシーケンス・セクションの中心部に表示されます。
- プレビュー・ボタン - 表示中のシーケンスのプレビューを行います。
- シーケンス・レンジス・ボタン - 「+」と「-」ボタンを押すとシーケンスの長さを変更できます。
- シーケンス・オプション・メニュー - その他のシーケンス設定はポップアップ・メニューから設定可能です。複数のパッドを選択している場合はポップアップ・メニューに表示される内容は少なくなります。また一部の項目はシーケンス・モードが選択されている場合にのみ表示されます。表示される項目は以下の通りです:
  - シーケンスをコピー - 表示中のシーケンスをコピーします。
  - シーケンスをペースト - コピーされたシーケンスを表示中のシーケンスに挿入します。シーケンスのコピー＆ペーストは同一パッド内だけでなく異なるパッド間で、また

- 異なるシーンやプロジェクト間でも行うことができます。
- シーケンスのインポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開きシングル・シーケンス・ファイル(拡張子.alphaseq)を表示中のシーケンスに読み込むことができます。
- シーケンス・セットのインポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き、拡張子.alphaseqのシーケンス・ファイルを読み込むことで複数のシーケンスを表示中のシーケンスに読み込むことができます。
- シーケンスの書き出し - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き表示中のシーケンスを.alphaseqファイルとして保存することができます。
- シーケンス・セットの書き出し - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き、各パッドのシーケンス情報を拡張子.alphaseqsetのシーケンス・ファイルとして保存することができます。
- MIDIファイルからシーケンスをインポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開きMIDIファイル(拡張子.mid)を表示中のシーケンスに読み込むことができます。詳細は本マニュアル「MIDIファイルを読み込み／書き出しうる」のセクションを参照してください。
- MIDIシーケンスの書き出し - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き表示中のシーケンスを.midファイルとして保存することができます。詳細は本マニュアル「MIDIファイルを読み込み／書き出しうる」のセクションを参照してください。
- MIDIシーケンス・セットの書き出し - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き各パッドのシーケンスを.midファイルとして保存することができます。詳細は本マニュアル「MIDIファイルを読み込み／書き出しうる」のセクションを参照してください。
- サンプル・バンクのインポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き選択されたパッドに.alphabankファイルからサンプルを読み込むことができます。オーディオ・シーケンサー・モード時のみ表示されるメニューです。
- サンプル・バンクの書き出し - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き選択されたパッドにアサインされているサンプルを.alphabankファイルとして書き出すことができます。オーディオ・シーケンサー・モード時のみ表示されるメニューです。
- クリア - 表示中のシーケンスを削除します。
- 全てをクリア - パッドに登録されているシーケンスを全て削除します。

## シーケンサー・モード

シーケンサー・モードはAlphaSphereをシーケンサーとして使用するモードです。各パッドは最大8つの32ステップ・シーケンサーを保持することができ、ループ再生やエフェクト処理を行うことができます。詳細は本マニュアル付録のMIDIセクションを参照してください。

MIDI／オーディオ・シーケンサーでは以下の設定を行うことができます:



11. パッド動作ボタン - 本マニュアル内のパッド動作モードのセクションを参照してください。

## シーケンサー・モード

12. ロータリー・コントロール - 回転式ダイアルで各設定の値を変更します。「+」、「-」ボタンで以下の5つの項目を切り替えて設定を行います。表示される設定項目はパッドがMIDIシーケンサー・モードかオーディオ・シーケンサー・モードかによって異なります。以下の項目は共通です。

- 相対テンポ設定 - 選択されたシーケンスの相対的なテンポを設定します。グローバル・テンポの値に対しシーケンスのテンポを1/4倍、1/2倍、等倍、倍、4倍にすることができます。

13. ループ・ボタン - シーケンスをループ再生します。

14. ループ終了ボタン - このボタンがオンのときにサンプル再生の停止が指示されると、現在再生中のループが終了した時点でサンプルの再生が終了します。

15. 変更不可ボタン - このボタンをオンにするとパッドが変更できなくなります。エクスクルーシブ・グループまたはキル・スイッチでのみオフにすることができます。

16. プレッシャー・リンク・ボタン - パッド圧によってシーケンスを切り替える機能をオンにします。.



1. MIDIチャンネル・ボタン - 選択されたパッドのMIDIチャンネルを変更します。
2. ロータリー・コントロール - 回転式ダイアルで各種設定の変更を行います。設定する機能は「+」、「-」ボタンで以下の5つの項目を切り替えて設定を行います。その他の設定項目は以下の通りです。
  - ・ノート・レンジス - シーケンス内のMIDIノートの長さ(シーケンス・ステップ/拍子)を設定します。ノートの長さはシーケンスより長くすることはできません。
3. MIDIプレッシャー・モード・ボタン - 本マニュアルのMIDIプレッシャー・ボタンのセクションを参照してください。
4. 圧力状態ボタン - このボタンをオフにすると選択されたパッドの圧力データは無視されMIDIデータが送信されなくなります。
5. 圧力範囲スライダ - パッドが送信するMIDIプレッシャーデータの最大値と最小値を設定します。
6. スティッキー・ボタン - パッドが離され再度押されるまでパッド圧の値が最大値を維持するようになります。

MIDIノート・データの設定については、本マニュアルのピアノのセクションを参照してください。

## MIDIシーケンサー・モード

パッドをMIDIシーケンサー・モードにするとMIDIノート・シーケンスの再生、ループ、編集を行うことができます。MIDIパッド・モード同様、連続した各種MIDIデータをパッド圧により送信することも可能です。このモードはMIDIデータの送信のみを行います。AlphaLiveによって音声信号は出力されません。本マニュアル用語集のMIDIのセクションを参照してください。MIDIシーケンサー・モードでは以下の項目も設定できます:



1. オーディオ・ファイル選択ボタン - これらのボタンを使用してシーケンサー・パッドで使用するオーディオ・サンプルをアサインします。クリックすると開くファイル・ブラウザを使用するか、またはボタンにオーディオ・ファイルを直接ドラッグ＆ドロップしてサンプルをアサインします。アサインできるファイルはWAVまたはAIFFです。情報ボックスにオーディオ・ファイルの一覧が表示されます。

2. ロータリー・コントロール - 回転式ダイアルで各種設定の変更を行います。設定する機能は「+」、「-」ボタンで以下の5つの項目を切り替えて設定を行います。オーディオ・シーケンサー・モードでは以下の項目も設定できます：

- ゲイン - オーディオ・サンプルのゲイン/ボリュームを変更します。
- パン - オーディオ・サンプルのパンを変更します。
- アタック・タイム - オーディオ・サンプルのアタック・タイムを変更します。アタック・タイムを設定するとサンプルにフェード・インの効果がかかります。
- ポリフォニ - サンプルの同時発音数の最大値を設定します。

オーディオ・シーケンサーのエフェクトをパッド圧で操作する設定は本マニュアルのエフェクト・セクションをご覧ください。

## オーディオ・シーケンサー・モード

パッドをオーディオ・シーケンサー・モードにするとオーディオ・シーケンスの再生、ループ、エフェクト処理が可能になります。サンプラー・モード同様、パッド圧でエフェクトのパラメータを変更することも可能です。オーディオ・シーケンサー・モードでは以下の項目が設定できます：



## シーケンスの記録

AlphaLiveではMIDIおよびサンプラー・パッドからのノート・データをシーケンサー・パッドに記録することができます。シーケンサー・パッドが記録状態のとき、AlphaLiveはMIDIノートまたはサンプルのトリガー情報をシーケンス内の最もタイミングが近いグリッドに記録します。シーケンス作成の簡単な手順は以下の通りです：

- MIDIまたはサンプラー・パッドをパッド・レイアウトから選択します。
- 録音したいシーケンサー・パッドを選択します。(以前に選択したパッドの選択を解除しないようにするには、Ctrl(MacではCommand) + クリックしてください。ここに複数のシーケンサー・パッドを選択することができます。)
- 「編集」メニューにから「Copy…to Sequencer Pad」のオプションを選択します。このオプションが有効でない場合、次の理由のいずれかが原因になります。
  - 記録する為のMIDIとサンプラー・パッドを選択した場合、MIDIノートとサンプルが同じシーケンスにある場合は記録ができません、他のパッドを同じモードにセットしてください。
  - 異なるMIDIチャンネルに設定されたMIDI・パッドを選択した場合、同じ列に複数のチャネルに設定されたMIDIノートを記録することはできません。セレクト・パッドは同じMIDIチャンネルに設定してください。
  - 「コントローラ」または「オフ」モードに設定されたパッドを選択した場合、シーケンサー、MIDI、サンプラーのパッドを選択してください。
- シーケンサー・パッド内のレコードボタンが有効になっていることを確認してください。
- 演奏できるようにシーケンサー・パッドを設定し、MIDIやサンプラーのパッドがトリガーされるたびにそれがシーケンスに「ノート」を記録します。

# MIDIファイルの読み込み／書き出し

シーケンサー・パッド内のシーケンスには.midファイルの読み込み／書き出しが可能です。AlphaLiveにはピアノ・ロール方式ではなく32ステップのステップ・シーケンサーが搭載されています。そのためMIDIファイルを読み込んだ場合、各ノートの発音タイミングは最も近いグリッドに強制的に変換されます。

## 読み込み

本来MIDIファイルには様々なMIDIメッセージを格納することができますが、AlphaLiveのシーケンサーはその全てのメッセージには対応していません。従ってMIDIファイルを読み込む際に対応していないMIDIメッセージは無視されます。またMIDIファイルは仕様上127のノート番号に対応しシーケンス・レンジスは無限です。そのためAlphaLiveにMIDIデータを読み込むとノート番号の数とシーケンス・レンジスはAlphaLiveのシーケンサーの仕様に合わせて8×12×32に変更されます。

AlphaLiveがMIDIファイルを読み込む際の処理は以下の通りです：

1. ノート・オン情報を検出するためMIDIシーケンスがタイムラインに沿ってチェックされます。12個のノート番号が見つかるまでノート番号の検出が行われます。上で検出された12個のノート番号以外のMIDIノートがシーケンスから削除されます。
2. ひとつのシーケンスを読み込む場合はAlphaLiveのシーケンス・レンジスに合わせてシーケンスが切り取られます。複数のシーケンスを読み込む場合はMIDIファイル内のシーケンスがAlphaLiveの

シーケンス・レンジスに合わせて分割されます。

3. AlphaLiveにはノート・オンの情報のみが読み込まれます。ノート・オフを含むその他のデータは無視されます。ノートはシーケンサーの横列にノート番号順に並びます。発音タイミングはシーケンサーの最も近いグリッドにクォンタイズされます。
4. MIDIシーケンサー・モードのパッドにMIDIシーケンスを読み込む場合はMIDIファイルからノート番号のデータを読み込むかどうかを選択できます。MIDIノート番号データが読み込まれシーケンサーに挿入されます。ノート番号を参照しないで読み込む場合は、ノート・オンの情報のみが読み込まれパッド内のシーケンサーにあらかじめ設定されているノート番号は変更されません。

マルチ・トラックのMIDIファイルを読み込む場合は最初のトラックのみが読み込まれますのでご注意ください。またMIDIチャンネルの情報は無視されます。

## 書き出し

シーケンスのMIDIファイルへの書き出しあは、読み込みより単純です。シーケンス内の全てのノートはMIDIノート・オン・イベントに変換され、所定のノート・レンジスとノート・オフ・イベントが追加されたデータが書き出されます。オーディオ・シーケンサー・パッド内のシーケンスを書き出す場合は、一般的なGMドラム・マッピング(付録2参照)のフォーマットに変換されます。ツールボックス・セクションに表示されるAlphaLiveのドラム・バンクのレイアウトとほぼ同じ状態が保たれます。書き出されたMIDIファイルはシングル・トラック／リージョンのMIDIチャンネル1のデータとなります。



1. シーン切替モード - 別のシーンに切り替えるスイッチとしてパッドを使うことができます。(「シーンの構成」セクション参照)このボタンを押すと設定が表示され、スイッチするシーンを選択することができます。
2. MIDIプログラム・チェンジ・モード - パッドからMIDIプログラム・チェンジ・メッセージを送信できます。MIDIプログラム・チェンジとはプログラム・チェンジ番号とチャンネル番号を含むメッセージです。いずれもユーザが定義して活用することができます。
3. デュアル・シーン/プログラム・チェンジ・モード - 上の2つのモードを一つにまとめたモードです。
4. OSC(Open Sound Control)モード - OSCメッセージを送信できます。詳細は本マニュアルの用語集のOpen Sound Controlをご覧ください。また付録3のAlphaLive OSCアドレス割り当て手順も参照してください。
5. キルスイッチ - 本体に搭載されているリセットボタンと同様の動作。瞬時に任意のノート、サンプルまたはシーケンスやクロックを停止します。このオプションでパッドをキルスイッチとして利用できます。
6. プレッシャー・ラッチ・モード - このオプションを使用すると、パッドをラッチした後に、別パッドのラッチを解除することができます。プレッシャーラッチモード機能の詳細はプレッシャーラッチモードの項を参照してください。
7. LED Control- このオプションでは、AlphaSphereパッドに搭載することができます。

## プレッシャー・ラッチ・モード

このモードはパッドをラッチする際の値を設定します。MIDIのスライダー/ダイヤルをコントロールするのに適しています。パッドを離すことで値はゼロに戻ります。”スティッキー”にもよく似ていますが、再度押しても値はリセットされません。

使用方法については下記をご覧ください:

1. 'コントローラ'パッドにするパッドを選択して、オプションからコントロールモードを'プレッシャー ラッチ'にしてください。
2. パッド設定からテキストボックスを表示させ、コントロールするパッド番号を選択します。既に選択されているパッドは選択できません。
3. ステップ2でいくつかのパッドを押して選択/追加し、さらにコントローラパッドを押してください。押し込む度合いによって、パッドレイアウト上のカラーが変化することに気づくでしょう。パッドを離すとパッドの押し込む値がゼロになります。
4. パッドを再度押すとラッチが解除されます。

## コントローラ・モード

パッドをコントローラ・モードに設定することでAlphaSphereに様々な機能を追加することができます。



## グローバル・パッド設定

パッド設定セクションの左下にあるボタンで、モード全体の設定にアクセスすることができます:



1. エクスクルーシブ・グループ・モード - エクスクルーシブ・グループに設定されたパッドは単一のパッドのみが再生されます。ノートやサンプル、シーケンスが再生された状態で同じエクスクルーシブ・グループのパッドを新たにトリガーすると、それまで鳴っていたパッドは自動的にオフになります。チョーク・グループやモノフォニック再生と同様の機能です。このボタンをクリックするとグループ番号が表示され、属するグループを変更することができます。(注釈4)
2. プレッシャー・カーブ選択 - パッドの物理的な深さと出力されるデータのマッピングを設定できます。「指数」に設定すると出力データは指数関数の分布で生成され、小さい圧力に重点が置かれる設定となります。「対数」に設定すると出力データは対数関数の分布で生成され高い圧力に重点が置かれた設定になります。
3. ベロシティ・カーブ選択(MIDI、サンプラー、コントローラ・モードのみ) - パッドのベロシティ値のマッピングを変更できます。「指数」に設定すると出力データは指数関数の分布で生成され、低いベロシティに重点が置かれる設定となります。「対数」に設定すると出力データは対数関数の分布で生成され大きいベロシティに重点が置かれた設定になります。「静的」に設定するとパッドのベロシティ値は無視され、ロータリー・コントローラで設定された固定のベロシティ値によってMIDIノートやオーディオ・サンプルが再生されます。MIDIモードまたはコントローラ・モードでは固定のベロシティ値を設定する項目が表示されます(注釈5)。(サンプラー・モードではゲイン・コントロールの値が固定値として用いられます)
4. "Exclusive Group Number Slider" このオプションはグループに番号を割り振ります。)
5. "Stagic Velocity Value Slider" このオプションはベロシティの値を静的にします。
6. "Velocity Minimum Range Selector" このオプションはベロシティの下限範囲を設定します。
7. "Velocity Maximum Range Selector" このオプションはベロシティの上限範囲を設定します。.



パッド・セクションの外側にある扇形のピアノ鍵盤を用いてMIDIモードまたはMIDIシーケンサー・モードで用いるMIDIノートを選択することができます。その他のモードの場合は鍵盤はグレーアウトされ選択できません。いくつかのマウス・コマンドに対応しており複数のパッドに対してもMIDIノートのアレンジのセットやスケールを直感的に適応可能です。鍵盤の右端には設定されたMIDIノートやルートのノートが表示されます。表示を右クリックすることでMIDIノート番号とノート名の表示を切り替えることができます。

## MIDI モード

MIDIモードではピアノを用いて各パッドに単一のMIDIノートを設定できます。複数のパッドが選択された場合はピアノの鍵盤上で以下のマウス・コマンドが使用できます:

- ・ クリックで選択された全てのパッドに対して単一のMIDIノートを選択できます。
- ・ Cmd+クリック(Mac)またはCtrl+クリック(Windows)で複数のノートを選択してパッドのセットを適用することができます。選択されたノートの順番が選択された順番でパッドに適用されます。選択できるノートの最大値と選択されたパッドの数は同じになります。最大値までノートを選択しない場合は残りのパッドにはセットの最初のノートが適用されます。
- ・ Alt+クリックでノートのセットを移調することができます。クリックされたキーがルートのノートとなり、セットが全体的に移動します。鍵盤の最大値(120/B7)を超えて移調することはできません。(above 120/B7)

## シーケンサー・モード

シーケンサーMIDIモードではピアノを用いることでシーケンサー・グリッドの12のノートを設定することができます。選択された複数のパッドがMIDIシーケンサー・モードの場合は以下のマウス・コマンドが使用できます:

- ・ のクリックでノートのセットを移調することができます。クリックされたキーがルートのノートとなり、セットが全体的に移動します。鍵盤の最大値(120/B7)を超えて移調することはできません。
- ・ Cmd+クリック(Mac)またはCtrl+クリック(Windows)でノートのセットを選択します。選択されたノートはシーケンサー・グリッドの下から順に適用されます。最大12のノートを選択できます。あえて最大値までノートを選択せずに一部のシーケンサー・グリッドをオフにすることも可能です。ノートの選択と同様の動作でセットからノートを削除することができます。

## サンプル

AlphaLiveには「Loopmasters」、「Zero-G」、「5Pin Media」などから提供されたプロ・クオリティのオーディオ・サンプルが約1GB付属しています。オーディオ・サンプル・ツールボックスは一般的なファイル・ブラウザです。-「+」をクリックするとフォルダの中身が展開されます。ツールボックスのタブはサンプラー・パッドの場合のみ表示されます。

## バンク

AlphaLiveにはオーディオ・シーケンサー・パッドとサンプラー・パッドで使用するドラム・キット集が付属しています。シーケンサー・グリッドや複数のサンプラー・パッドにドラム・キットを読み込んだ場合のオーディオ・サンプルの配列はGMドラム・マッピングとほぼ同じ配列で作られています(付録2参照)。キットには16個のサンプルが含まれています。サンプラー・パッドの場合は最大16のパッドにサンプルをアサインできます。キット内のサンプルはツールボックスの「サンプル」タブ内の「AlphaBanks」フォルダにまとめられており、ここから個別にアサインすることもできます。

## スケール

AlphaLiveではノート・スケールがプリセットされておりMIDIシーケンサー・パッドやMIDIパッドで使用することができます。スケールを読み込むとピアノ鍵盤で選択中のルートのノートから順番にスケールに沿ってノートが設定されます。シーケンサー・グリッドでは列に合わせて、MIDIパッドでは選択されたパッドの順番にノートがアサインされます。各スケールは48のノートを含むためAlphaSphere上の全てのパッドに好きな数だけ割り当てることができます。ピアノ鍵盤で各種マウス・コマンドを使うことでノートの構成を変更することができます。

「AlphaLive」フォルダにある「Application Data」ディレクトリにある「user\_scales」というXMLファイルを編集することで独自のスケールを追加することも可能です。方法は、このXMLファイルにある手順を参照してください。

## ノート・レイアウト

レイアウト機能はスケールと似た機能ですが、選択されたパッドが全てMIDIモードの場合にのみ使用できます。スケール機能は任意のパッドに対しスケールの順にノートがアサインされますが、レイアウトは全てのパッドを使った配列により直感的な演奏が可能です。詳細は付録1「レイアウト・マッピング」を参照してください。

「AlphaLive」フォルダ内「Application Data」ディレクトリにあるXMLファイル「user\_notational\_arrangements」を編集することで好みのノート配列をツールボックスに追加することができます。方法は、このXMLファイルにある手順を参照してください

## シーケンス

ツールボックスにあるシーケンス・タブにはシーケンサー・パッドで使用できるシーケンスのアレンジ/パターンのプリセットが表示されます。ここから表示中のシーケンスに複数のシーケンスを読み込むことができます。読み込まれたシーケンスはシーケンサー・グリッドで編集可能です。

## エフェクト

ツールボックスのエフェクト・タブにはサンプラー・パッドとオーディオ・シーケンサー・パッドで使用できるエフェクト・プリセットが表示されます。エフェクト・プリセットをロードするとプリセットに設定済みのエフェクトとパラメータ設定が読み込まれます。

## モード・プリセット

モード・プリセットは各種設定がまとめて設定されたプリセットで、全てのモードに用意されています。モード・プリセットには全ての設定が保存されているわけではありません。ほとんどのモード・プリセットにはMIDIノート・データ、オーディオ・サンプル、シーケンス・データ、エフェクト設定が含まれていませんのでご注意ください。

## ツールボックス

ツールボックスにはパッドに設定する様々な項目が表示されます。タブで項目を切り替えて使用します。タブの内容はモードや選択したパッドの数によって異なります。タブ内のアイテムはダブル・クリックすることで適用できます。各モードで表示されるタブの内容は左の通りです。



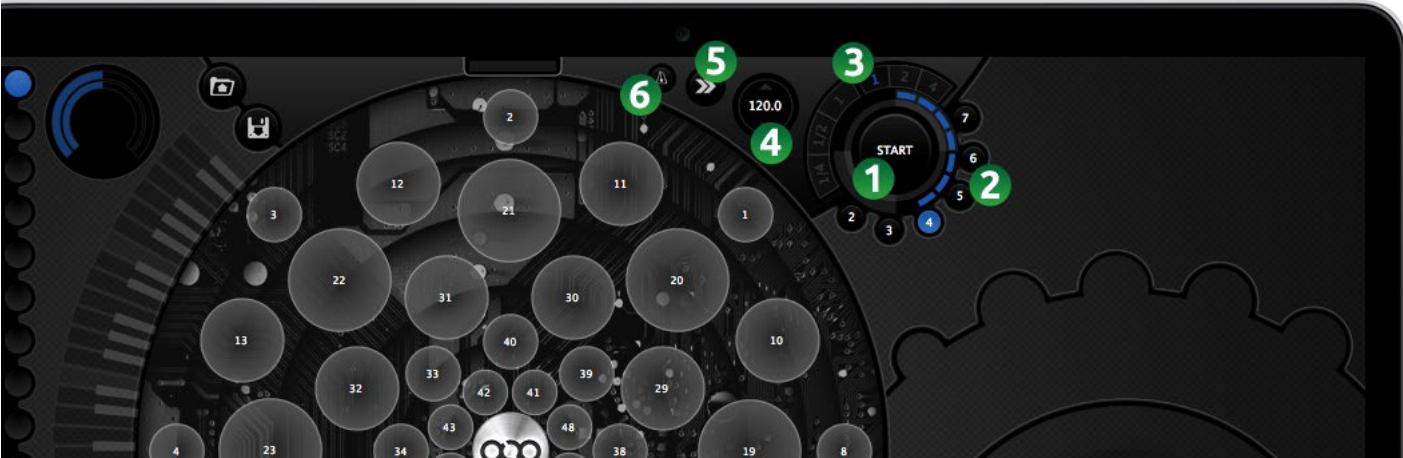
## シーンのプリセット

マッピングやテンプレートとしてシーンをプリセットすることができます。  
View / Show Scene Presets In Toolbox..”  
より開いてください。

## グローバル・クロック

## シーン機能

グローバル・クロックではノート、サンプル、シーケンスのプレイバックのクオンタイズやシーケンスの記録などにも使用されるAlphaLiveの内部クロックに関する設定を行います。一般的なMIDIシーケンス・ソフトウェアに搭載されるトランスポート機能と同等のものです。グローバル・クロックでは以下の設定を行うことができます。



1. スタート／ストップ・ボタン - クロックを手動でスタート／ストップさせるボタンです。再生中はボタンの周囲に現在の拍子と小節数が表示されます。4小節まで再生されるとクロックは最初の小節に戻り、これを繰り返します。クロックのスタート／ストップはスペース・バーで行うことも可能です。
2. 拍数設定ボタン - 1小節の拍数を設定し、シーンごとに設定可能。クロックの基本となる拍子数を設定します。
3. クオンタイズ値ボタン - 現在のシーンでクオンタイズがオンにされているパッドのグローバル・クオンタイズ値を設定するボタンです。クオンタイズ機能がオンにされたパッドは、設定されたクオンタイズ値の次のタイミングでトリガーされます。
4. テンポ設定 - 現在のシーンのグローバル・テンポを設定します。クロックやシーケンスの速さを調整します。テンポに追従する一部のエフェクタでも使用されるパラメータです。BPMの単位で表示されます。
5. オート・スタート・ボタン - このボタンをオンにすると最初にMIDI、サンプラー、シーケンサーのパッドが叩かれたと同時にクロックがスタートします。
6. メトロノーム・ボタン - クロック再生中にクリック音を出力します。シーケンスを記録する際に活用できるでしょう。

20個のスロットにパッド設定のセットをシーンとして保存できる機能です。セッティングを簡単に切り替えることができるためライブ・パフォーマンスで真価を発揮します。各スロットは以下の3つのステータスのいずれかに属します:

- 空 - シーン内の全てのパッドがオフの状態です。スロット・ボタンが黒く表示されます。
- 選択中 - 現在のシーンを意味します。青色のスロットで表示されます。
- 設定済み - シーン内で少なくとも一つのパッドにデータが設定されている状態。灰色のスロットで表示されます。

スロットは以下のマウス・コマンドに対応します。

- 通常のクリックをするとクリックしたスロットの設定が読み込まれます。
- 選択されていないスロットをShift+クリックすると現在のシーン・データがクリックしたスロットにコピーされます。
- 選択中のスロットをShift+クリックすると最近の変更がシーンに保存されます。デフォルト設定でシーン切り替えを行うと、それまで開いていたシーンの設定は切り替わる際に自動保存されます。つまりシーンを切り替えるたびにこの操作を行う必要はありません。シーンの保存は初期設定で「シーンの自動保存」をオフにしている場合に必要となります。
- 右クリックで開くpopupアップ・メニューでその他の命令を実行できます
  - シーンのインポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き、選択されたシーンに.alphasceneファイルを読み込むことができます。ドラッグ&ドロップでシーン・ファイルをスロットに読み込むことも可能です。
  - シーンのエクスポート - この項目を選択するとファイル・ブラウザが開き、選択されたシーン・データを.alphasceneファイルに書き出すことができます。
  - シーンの消去 - 選択されたシーンの全てのパッドをオフにしデフォルト値にリセットします。
  - 前の状態に戻す - 全ての設定を最後に保存した状態に復帰させます。

## elite 設定

その他

幸運にも限定品のAlphaSphere eliteモデルをお持ちの場合は、eliteモデルに搭載されるロータリー・ダイアルとボタンの設定セクションがAlphaLive画面左下に表示されます。これらの5つのボタンでハードウェアに搭載されるつまみ／スイッチの設定を行います。各ボタンをクリックするとパッド設定セクションに項目が表示され設定の変更を行うことができます。elite設定ボタンを右クリックすると表示されるpopupアップ・メニューを用いることで、クリックしたボタンの設定を全てのシーンに複製することができます。

eliteダイアルでは以下の設定が可能です:

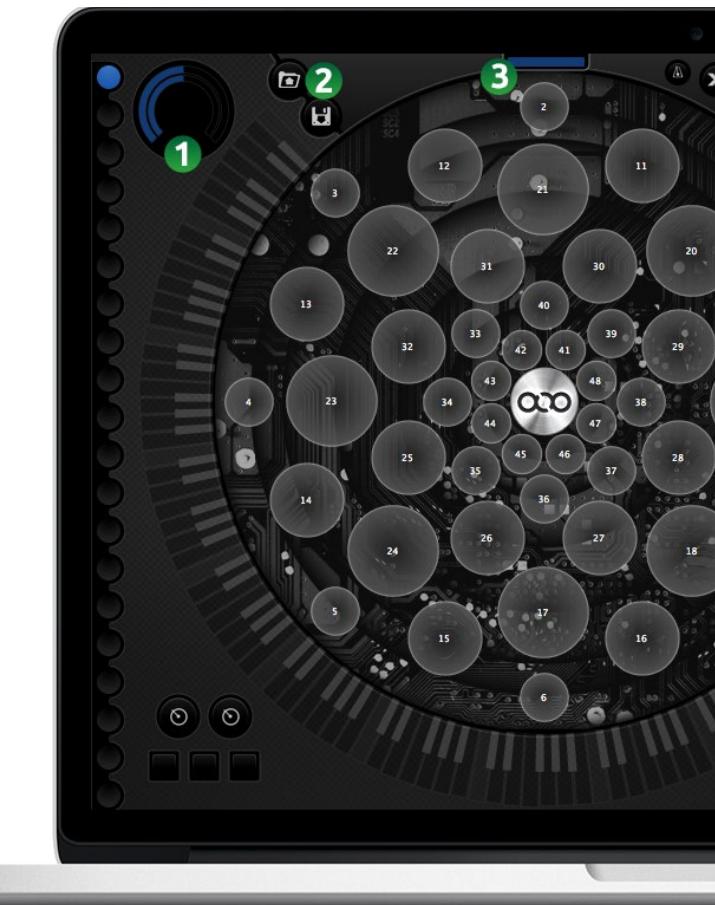
- オフ - パッド設定セクション中央のボタンをオフにすることで選択されたダイアルを無効にします。
- グローバル・ゲイン - AlphaLiveのグローバル・ゲインつまみとして使用します。
- グローバル・パン - AlphaLiveのグローバル・パンつまみとして使用します。
- シーン・スイッチャ - ダイヤルの各ステップでシーンを順に切り替えます。
- MIDI CC - MIDI CCメッセージを送信します。MIDI CCは以下の設定が可能です:
  - MIDI CC 番号
  - MIDI チャンネル
  - MIDI CC 最小値
  - MIDI CC 最大値
- OSC - Open Sound Controlメッセージを送信します。(詳細は用語集のOpen Sound Control、また付録3のAlphaLive OSCアドレス設定に関する解説を参照してください。)  
設定可能な項目は以下の通りです。
  - OSC ポート番号
  - OSC IP アドレス
  - OSC 最小値
  - OSC 最大値

eliteボタンは以下の機能を搭載しています:

- オフ - パッド設定セクション中央のボタンをオフにすることで選択されたボタンを無効にします。
- クロックの開始／停止 - AlphaLiveのグローバル・クロックの開始／停止をハードウェアのボタンで行うことができます。
- キル・スイッチ - ノート、サンプル、シーケンスのプレイバックや内部クロックの再生を即座に停止する「パニック・ボタン」です。
- シーン・スイッチャ - 別のシーンに切り替えることができます。
- 保存 - AlphaLiveプロジェクトを保存します。
- MIDI CC - MIDI CCメッセージを送信します。以下の設定が可能です。
  - MIDI CC 番号
  - MIDI チャンネル
  - ボタン「オフ」値
  - ボタン「オン」値
- OSC - Open Sound Controlメッセージを送信します。(詳細は用語集のOpen Sound Control、また付録3のAlphaLive OSCアドレス設定に関する解説を参照してください。)  
OSCは以下の設定が可能です:
  - OSC ポート番号
  - OSC IP アドレス
  - ボタン「オフ」値
  - ボタン「オン」値
- LED Controls - AlphaSphereに搭載されたLEDをコントロールすることができます。

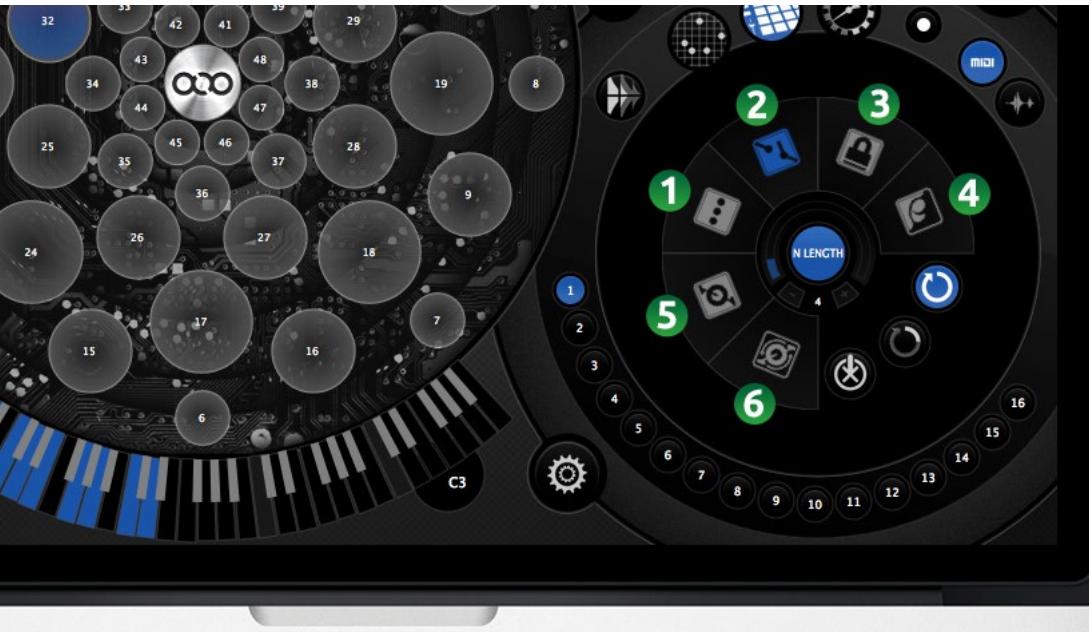
画面左上ではマスタ・セクションの設定を行います。

- グローバル・ゲインとグローバル・パン設定 - 選択中シーンにおける出力オーディオ信号全体のゲインとパンを設定するスライダです。
- プロジェクトを読み込み／保存ボタン - 全てのシーンを.alphaliveファイルとして読み込み／保存することができます。
- デバイス・ステータス - AlphaSphereがソフトウェアに認識されているかを表示します。AlphaSphereがAlphaLiveに正しく認識されていると、このボタンが青に点灯します。



## パッド動作モード

MIDIモード、サンプラー・モード、シーケンサー・モードでのパッド入力による振る舞いはパッド動作モードと呼ばれる複数の設定ボタンで設定します。ハードウェアへの物理的な入力に反応してサンプル、シーケンス、ノートがどのように機能するかを設定します。パッド動作モードには以下の6つの種類があります：



1. スタンダード・モード - パッドを押すとサウンドが再生され、離すと停止します。
2. トグル・モード - パッドを押すとサウンドが再生され、再度押すと停止します。
3. ラッチ・モード - パッドを押すとサウンドが再生され、パッドを一番深くまで押してから離すと停止します。
4. トリガー・モード - パッドを押すとサウンドが再生され、再度押すとリトリガーされ、一番深くまで押してから離すと停止します。
5. サイクル・モード - シーケンサー・モードでのみ設定可能です。パッドを押すとシーケンスが再生され、再度押すと次のシーケンスに切り替わります。一番負荷夢魔で押してから離すとシーケンスが停止します。
6. オート・サイクル・モード - シーケンサー・モードでのみ設定可能です。パッドを押すとシーケンスが再生され、再度押すと停止します。シーケンスが最後まで再生されると自動的に次のシーケンスに切り替わります。

## MIDIプレッシャー・モード

MIDIモードとMIDIシーケンサー・モードではMIDIプレッシャー・モードと呼ばれる設定ボタンが表示されます。パッド圧によって送出するMIDIデータの種類を設定します。詳細は本マニュアル付録のMIDIセクションを参照してください。以下の項目の設定が行えます：



1. ポリフォニック・アフタータッチ。ポリ・プレッシャーとしてしられる機能です。
2. チャンネル・アフタータッチ。チャンネル・プレッシャーとしてしられる機能です。
3. モジュレーション・ホイール。Controller 1のCCメッセージを送信します。
4. CCメッセージ。MIDI CCメッセージを送信します。コントロール番号の設定が可能です。
5. ピッチ・ベンド・アップ
6. ピッチ・ベンド・ダウン。

# エフェクト

サンプラー・モードとオーディオ・シーケンサー・モードはパッド圧によってリアルタイム・コントロールが可能なエフェクトが使用できます。AlphaLiveには10種類のエフェクトが搭載されています。パッドを押す深さをエフェクトのパラメータにマッピングすることで表情豊かなエフェクト処理を行うことができます。

全てのエフェクトは以下の項目を設定できます。パッド圧によるエフェクト処理を高度にプログラム可能です。



1. オン／オフ・ボタン - エフェクトのオン／オフを切り替えます。
2. エフェクト・ボタン - 使用したいエフェクトを選択します。エフェクト・ボタンは以下の順で並んでいます。(上から時計回り)ゲイン／パン、ローパス・フィルタ、ハイパス・フィルタ、バンドパス・フィルタ、ディストーション、ビットクラッシャー、ディレイ、リバーブ、フランジヤー／フェイザー、トレモロ
3. Alpha Touchメニュー - パッドによって変更させるパラメータを設定します。
4. Alpha Touch 反転ボタン - パッド圧によって生成されるモジュレーション効果を反転させます。
5. Alpha Touch 強度設定 - パッド圧によって変更されるパラメータの幅を設定します。
6. スティック・ボタン - パッドが離され再度押されるまでパッド圧の値が最大値を維持するようになります。
7. ウェット／ドライ設定 - 原音とエフェクト音の割合を調整するスライダです。

パッドの圧力によって変更されるAlphaTouchエフェクトの変化の幅は、スライダで設定された各エフェクトのパラメータとAlphaTouch強度設定の値、そして反転ボタンのオン／オフの3つの要素で決定されます。パッド圧により変更されるパラメータの最大値(反転ボタンがオンの場合は最小値)はAlphaTouch強度設定の値に比例します。Alpha Touchのパラメータを最大値と同じ値にした状態で反転機能をオフにすると、パッドの圧力は無効になります。パラメータと最小値が同じでInvertがオンの場合も同様です。



## ゲインとパン

オーディオ信号のゲインとパンを変更するシンプルなエフェクトです。ゲイン・スライダとパン・スライダを用いて設定します。



## フィルター

AlphaLiveにはローパス・フィルタ(LPF)、ハイパス・フィルター(HPF)、バンドパス・フィルター(BPF)の3種類の標準的なフィルタが搭載されています。LPFは高音域成分をカットし、HPFは低音域成分をカットします。BPFは特定の帯域のみをスルーさせるフィルターです。各フィルターでは以下の設定が可能です:

- 周波数設定 - LPF、HPFのカットオフ周波数、BPFの中心周波数を設定します。
- 帯域幅／レゾナンス設定 - フィルターのバンド幅を設定するスライダです。値が高いとバンド幅は狭くなりフィルター特有のサウンドが強調されます



## ディストーション

AlphaLiveにはいくつかのディストーション・エフェクトを搭載しています。以下の設定が可能です:

- ディストーション・タイプ・メニュー - ディストーションの種類を選択します。
- ドライブ - ディストーションのレベルを設定します。
- トーン - ディストーション全体のトーンを設定します。トーン設定を変更するとバンド幅固定のBPFの周波数が変更され、音色をコントロールすることができます。ゼロの場合はフィルタがバイパスされます。



## ビットクラッシャー

AlphaLiveにはもう一つのディストーション・エフェクトとしてビットクラッシャーが搭載されています。サウンドの解像度を落とすエフェクトです。設定項目は以下の通りです:

- ・ ダウンサンプリング - 値を大きくするほどサウンドのクオリティが減少しローファイな歪みが強くなります。
- ・ クラッシュ- ビットクラッシャー・ディストーションのレベルを設定します。
- ・ スムージング - 全体のトーンを設定します。スムージング設定を変更するとバンド幅固定のLPFのカットオフ周波数が変更されます。
- ・



## ディレイ

AlphaLiveにはグローバル・テンポに同期可能なデュアル・フィルタ・エコー・エフェクトを搭載されています。設定項目は以下の通りです:

- ・ フィードバック - ディレイの量を設定します。この値を一定以上大きくするとディレイ音が大きくなり続ける恐れがありますのでご注意ください。
- ・ ローパス・フィルター - ディレイ音のLPFのカットオフ周波数を設定します。この値がHPFのカットオフ周波数より低いとディレイ音が聴こえなくなります。
- ・ ハイパス・フィルター - ディレイ音のHPFのカットオフ周波数を設定します。この値がLPFのカットオフ周波数より高いとディレイ音が聴こえなくなります。
- ・ テンポ同期ボタン - このボタンをオンにするとディレイ音がAlphaLiveのテンポに同期します。
- ・ ディレイ・タイム・メニュー - テンポ同期ボタンがオンのときのディレイ・タイムの拍数を設定します。

- ・ ディレイ・タイム・スライダ - テンポ同期ボタンがオフのときのディレイ・タイムをミリ秒単位で設定します。



## リバーブ

AlphaLiveにはリバーブ・エフェクトが搭載されています。異なる空間にいるかのような効果を作ることができます。設定項目は以下の通りです。:

- ・ ルーム・サイズ - リバーブの長さを設定します。値を大きくするとリバーブを長くすることができます。
- ・ ダンピング - リバーブのダンピングを設定します。値が大きいほどリバーブの減衰音の高音域がカットされます。より繊細なリバーブ音を作ることができます。
- ・ 幅 - リバーブ音の幅を設定します。値を大きくするとステレオ感が大きくなります。



## フランジャー/フェイザー

AlphaLiveにはテンポ同期するスイープ・フィルタ効果を作ることができるフランジャー／フェイサーが搭載されています。設定項目は以下の通りです:

- ・ フィードバック - エフェクトのレベルを設定します。値が大きいほどより強いフランジャー効果を得ることができます。この値を一定以上大きくするとエフェクト音が大きくなり続ける恐れがありますのでご注意ください。
- ・ フランジャーの強度 - 選択されたパッドにかかるフランジャーの強さを設定します。値を大きくするとより広範囲

の周波数に対してスイープ効果がかかります。

- ・ テンポ同期ボタン - このボタンをオンにするとエフェクト音がAlphaLiveのテンポに同期します。
- ・ LFO周波数メニュー - テンポ同期ボタンがオンのときのLFOの周波数を拍数単位で設定します。
- ・ LFO周波数スライダ - テンポ同期ボタンがオフのときのLFOの周波数をミリ秒単位で設定します。



## トレモロ

AlphaLiveにはレベルを周期的に上下させるトレモロ・エフェクトが搭載されています。設定項目は以下の通りです:

- ・ 波形選択ボタン - LFOの波形を選択するボタンです。サイン波、矩形波、三角波、上昇鋸波、下降鋸波から選択可能です。
- ・ テンポ同期ボタン - このボタンをオンにするとトレモロ音がAlphaLiveのテンポに同期します。
- ・ LFO周波数メニュー - Tempo SyncボタンがオンのときのLFOの周波数を拍数単位で設定します。
- ・ LFO周波数スライダ - テンポ同期ボタンがオフのときのLFOの周波数をミリ秒単位で設定します。

# メニュー・バー

AlphaLiveウインドウには通常のメニュー・バーから様々なコマンドを実行することができます。メニュー内のコマンドを実行するショートカットを確認することも可能です。メニュー・バーに表示される項目は以下の通りです:

- AlphaLive・メニュー (Macのみ)
  - AlphaLiveについて - クレジットやバージョンなどソフトウェアに関する情報が表示されます。
  - 初期設定 - 詳細は下の初期設定セクションを参照ください。
  - AlphaLiveを終了 - ソフトウェアを終了します。
- ファイル
  - 新規プロジェクト - 空のプロジェクトを作成します。
  - 開く - AlphaLiveプロジェクト (.alphalive) ファイルを開きます。
  - 最近使った項目を開く - 最近開いたプロジェクトのリストから選択することができます。リスト下部の「メニューを消去する」を選択するとメニューの項目が削除されます。
  - 保存 - AlphaLiveプロジェクトを保存します。現在開かれているプロジェクトが保存されていない場合はファイル名と保存場所を指定するファイル・ブラウザが開きます。
  - 別名で保存 - プロジェクト・ファイルを別名で保存します。ファイル名と保存場所を指定するファイル・ブラウザが開きます。
  - プロジェクトの設定 - 詳細は下記を参照してください。
  - プロジェクトの初期化 - 現在のプロジェクトの一オーディオ・ファイル・ディレクトリを検索し、不要なファイルを削除します。データ容量が無駄に増大することを避けることができます。  
またこのコマンドによって使われていないモード設定がデフォルト値にリセットされます。
  - シーンのインポート - AlphaLiveシーン・ファイル (.alphascene) のシーン設定を現在のシーンに読み込みます。
  - シーンのエクスポート - 現在のシーンをAlphaLiveシーン・ファイル (.alphascene) に保存します。
  - 初期設定 (Windowsのみ) - 詳細は下記を参照してください。
  - AlphaLiveを終了 - ソフトウェアを終了します。
- 編集
  - パッド設定をコピー - 選択中のパッドの設定をコピーします。単一のパッドを選択中にのみ使用できるコマンドです。
  - パッド設定をペースト - パッド設定を選択中のパッドにペーストします。単一のパッドを選択中にのみ使用できるコマンドです。
  - シーンの消去 - 選択されたシーンの全ての設定をデフォルト値にリセットします。
  - 全てのシーンを消去 - 全てのシーンの設定をデフォルト値にリセットします。
  - シーケンサーにノート/サンプルをコピーする - シーケンサー・パッド。
- 表示
  - パッドのタッチ/トリガー設定 - 現在有効なパッドのタッチ/トリガー設定を表示する。
  - パッドのプレッシャー設定 - 現在有効なパッドのプレッシャー設定を表示する。
  - パッドのグローバル設定 - 現在有効なパッドのグローバル設定。
  - パッドのシーケンス設定 - 現在有効なパッドのシーケンス設定を表示する。
  - パッドのシーン設定を表示 - 全てのパッドを選択したり、有効なシーンプリセットを表示します。
  - パッドのコンテンツを表示 - このオプションはパッドコンテンツの一覧表示します。
- オプション
  - Info Boxを無効にする - AlphaLiveウインドウ下部に表示されるInfo Box機能を無効にします。
  - MIDI クロック送信 - AlphaLiveからMIDIクロックの送信を有効にします。このオプションが有効な場合はAlphaLiveがMIDIクロックマスターになります。
  - 外部MIDIクロックに同期 - 外部MIDIクロックの受信と同期を有効にします。このオプションが有効な場合はAlphaLiveがスレーブとなります。
  - MIDIクロック設定 - プロジェクトのMIDIクロック設定をします。
- コントロール
  - キルスイッチ - ノート、サンプル、シーケンスのブレイバッケや内部クロックの再生を即座に停止する「パニック・ボタン」コマンドです。
  - スタート クロック - クロックを手動でスタート/ストップさせるボタンです。
- ハードウェア
  - MIDI CCでのLEDコントロールを有効にする - LED設定の項をご参考ください。
  - ハードウェアプロジェクト設定 - 現在のプロジェクトおハードウェア設定を表示します。
  - ハードウェア設定 - グローバル・ハードウェア設定を編集できます。
- ヘルプ
  - リファレンスマニュアル - PDFマニュアルを開きます。
  - alphashereウェブサイトを見る - 公式ウェブサイトを開きます。
  - チュートリアル - 公式ウェブサイトのチュートリアルページを開きます。
  - トラブルシューティング/サポート - 公式ウェブサイトのサポートページを開きます。
  - ユーザーフォーラム.. - 公式ウェブフォーラムを開きます。
  - アップデートを確認する - 最新のアップデートを確認します。
  - AlphaLiveについて (Windowsのみ) - クレジットやバージョンなど、ソフトウェアに関する情報が表示されます。

# 初期設定

初期設定パネルにてソフトウェアのグローバル設定を行います。Macの場合はアップル・メニューから、Windowsの場合はファイル・メニューから起動します。初期設定はpreferencesファイルとしてコンピュータごとに1ファイルずつ生成されます。この設定はプロジェクトの設定に影響されません。初期設定パネルはタブでカテゴリ分けされています。パネル下部の「閉じる」ボタンで通常のインターフェイス画面に戻ることができます。

1. オーディオ・デバイス・タイプ(Windowsのみ) - 使用するオーディオ・デバイスを選択します。Windows Audio(WASAPI、Windows Vista以上)、DirectSound、ASIOのドライバがサポートされます。
2. オーディオ出力/デバイス - 選択中のデバイスが対応するオーディオ出力の中から出力方法を設定します。ASIOデバイスを選択した場合、この項目名は「デバイス」に変更されます。
3. テスト・ボタン - 選択中のオーディオ出力から短いテスト・トーンが出力されます。
4. 有効なオーディオ出力 - オーディオの出力チャンネルを選択します。
5. サンプリング・レート - サンプリング・レートを設定します。出力信号の音質はサンプリング・レートに依存します。サンプリング・レートを高くすると音質は向上しますが、より多くのCPUパワーを必要とします。
6. オーディオ・バッファ・サイズ - オーディオ・バッファのサイズを設定します。バッファは全てのオーディオ処理に使用されます。レイテンシと関係の深いパラメータです。

バッファ・サイズが大きすぎるとパッドを押してから音声が放出されるまでに遅延が発生してしまいます。反対にバッファ・サイズが大きすぎるとパッドを押してから音声が放出されるまでに遅延が発生してしまいます。反対にバッファ・サイズが小さすぎるとクリック・ノイズ、ポップ・ノイズ、ドロップアウト・ノイズが発生してしまいます。
7. デバイス・コントロール・パネル(Windows ASIOのみ) - ASIOデバイスを選択した場合、このボタンを押すことでASIOデバイス・コントロール・パネルを表示させることができます。オーディオ出力に関するその他の設定を行うことができます。

## 音声出力設定

「音声出力設定」タブにはAlphaLiveのオーディオ設定項目が表示されます。以下の設定を行うことができます:

The screenshot shows the 'General Settings' tab active, with the 'Audio Output Settings' tab open. The interface has a dark theme with various knobs and buttons visible in the background.

## 環境設定

「環境設定」タブにはAlphaLiveの一般設定項目が表示されます。以下の設定を行うことができます:

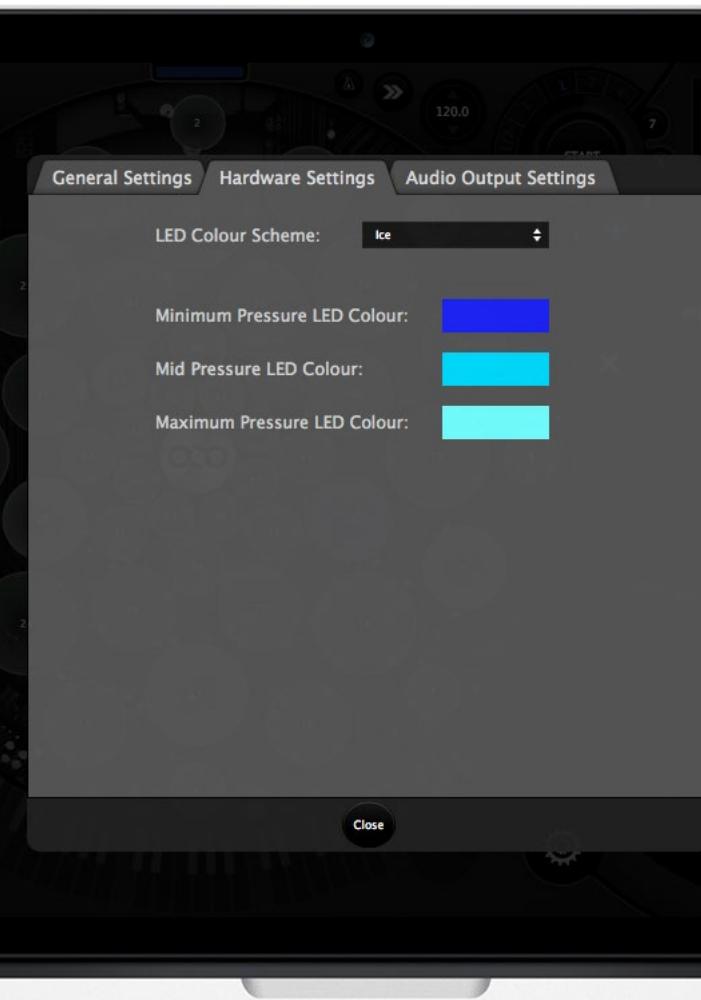


1. プロジェクト・ディレクトリ - AlphaLiveプロジェクト・ディレクトリを設定します。ここで指定したフォルダはAlphaLiveのプロジェクト・フォルダとして使用されます。コンテンツ・フォルダではありません。
2. 起動時 - AlphaLive起動時の動作を設定します。「新規プロジェクトの作成」、または「最後に使ったプロジェクトを開く」を選択できます。
3. プロジェクトを閉じる際に初期化 - プロジェクトを閉じる際にプロジェクト内の各設定が自動的にリセットされます。AlphaLiveは現在のプロジェクトのオーディオ・ファイル・ディレクトリから不要なファイル(サンプラー シーケンサー パッドにアサインされていないファイル)を削除します。これによりデータ容量を減らすことができます。また不要なモード設定をデフォルト値にリセットします。
4. シーンの自動保存 - シーン切替時に各種設定が自動的に保存されます。この設定をオフにした場合、シーンを切り替える際に保存されていない設定は破棄されます。破棄を防ぐには手動で保存(シーン・ボタンをShift+クリック)する必要があります。
5. アップデートの自動確認 - ソフトウェア起動時に最新のアップデートを確認します。
6. インターフェイステーマ - ソフトウェアのスキンを選択/変更します。
7. デバイス - 接続されるAlphaSphereのモデルを設定することができます。コンピュータにAlphaSphereが接続されている場合、この項目は自動的に設定されます。
8. ノート表示の種類 - AlphaLiveで表示されるMIDIノートの表示方法を設定します。MIDIノート番号またはMIDIノート名を選択できます。
9. パッドコンテンツディスプレイ - パッドレイアウトで表示するパッド情報を選択します。
10. MIDIチャンネル プレッシャー作用 - パッド圧の動作を「新規パッド」にするか「全てのパッド」にするかを選択します。
11. クロックの停止で全てのサウンドを停止 - MIDIクロックを停止したときに、サウンドを停止するかどうかを設定します。

## ハードウェア設定

「ハードウェア設定」には初期設定からアクセスします。

[ハードウェアの設定]タブにはAlphaSphereのLEDを編集するためのコントロールのセットが表示されます。



## ソフトウェア設定

「ソフトウェア設定」にはソフトウェア・ベースの設定ができます:

1. 外部ファイルのコピー – 初期値では"オン"になっています。インポートされた全てのオーディオファイルをプロジェクト・ディレクトリへコピーすることができます。また、外部で保存され現在プロジェクト内に含まれているどんなファイルでも即座にインポートすることができます。
2. MIDI Clock – MIDIクロック機能を有効にします。AlphaLiveをMIDIクロックマスターにしたい場合は'MIDIクロック送信'を選択します。MIDIクロックスレーブにする場合は、'外部MIDIクロックに同期'のオプションを選択してください。
3. クロック受信でスタート – 'MIDIクロック送信'が選択されている時に、MIDIクロックメッセージを受信すると同時に、AlphaLiveのシーケンスを開始するか クロックを継続するかを設定します。
4. メッセージフィルター – '外部MIDIクロックに同期'が選択されている時に、フィルターを使うことでMIDIクロック以外のメッセージをフィルタリングします。
5. プログラムチェンジを受信 – MIDI入力でプログラムチェンジ情報を受信するかどうかを設定します。

## AlphaSphere LEDの構成と制御

AlphaLiveバージョン1.3ではLEDをより詳細に制御できます。これは、色/明るさを圧力やクロックに連動してする方法を制御するだけでなく、外部のMIDIメッセージを使っての制御も可能です。

### 静的な色

デフォルトではAlphaSphereのLEDがパッドに加わる圧力に応じて色が変化します。これは今AlphaLiveを使用してカスタマイズすることができるRGB3つの間に独立した色を退色することによって動作します。「ハードウェア / ハードウェア設定」で設定ができます:

1. LEDカラーの構成 - LEDに適用可能なプリセットのカラースキームを設定します。
2. 最小時のLEDカラー - パッドが押されてない時の、LED色を設定します。
3. シングルプレス時nLEDカラー - パッドを押したときの深さに反応するLED色を設定します。
4. 最大時のLEDカラー - パッドを最大限に押したときのLED色を設定します。

## 相互作用の設定.

LEDを相互作用させることができます。「ハードウェア / ハードウェアプロジェクト設定」の「ハードウェア設定」を表示してください:

1. LED ステータス – LEDの on/offを設定します。
2. プレッシャーでLEDを動作 – デフォルトでは、パッドの圧力によってLED色が変化しますが、この設定を無効にするとLEDは「パッドが圧力を受けていない状態」になります。
3. クロックでLEDを動作 – LEDの点滅/点灯を外部MIDIクロックに同期させます。.

## MIDI CCコントロールモード.

LEDカラーを完璧にコントロールすることを望むなら、外部MIDI CC信号を受信することで、LEDを動作させるとよいでしょう。こちらのオプションを使う事で、外部ソフトからのMIDI CC信号でLEDを制御できます。

このオプションを使うには‘LEDをCCでコントロール’を‘オン’にし、MIDI信号を受信できる状態にしてください。受信するCCに対応するLED動作は下記の通り:

- Channel 16, CC 21 – 赤色 LED の輝度
- Channel 16, CC 22 – 緑色 LED の輝度
- Channel 16, CC 23 – 青色 LED の輝度

上記のメッセージを受信すると、値"0"でオフ、値"127"で輝度が最大になります。

MIDI CCコントロールモードの有効/無効を下記のメッセージで設定する事も可能です。

– Channel 16, CC 20

また、このモードでは圧力を無効にし、クロック制御のLEDがあるのでご注意ください。





# FAQ / トラブルシューティング

---

本マニュアルをお読みになり、いくつかのトラブルは解決できるかと思いますが、それでも問題が解決しない場合はAlphaSphere及び ディリゲントのサポートページをご覧下さい。

ここでトラブルシューティングのトピックのリストだけでなく、私たちが直接対応する為のサポートフォームがあります。質問を投稿して、あなたが持っている問題の解決策を私たちは提案します。

また、ユーザー自身で問題解決を見つけるために行くことができるAlphaSphereフォーラムもあります。フォーラムはまた、独自のAlphaSphere内容を紹介、または他のユーザーとヒントやコツを共有するのに適した場所です。AlphaSphere / AlphaLive開発者は、定期的にこのフォーラムで対応をします。

# 用語集



# MIDI

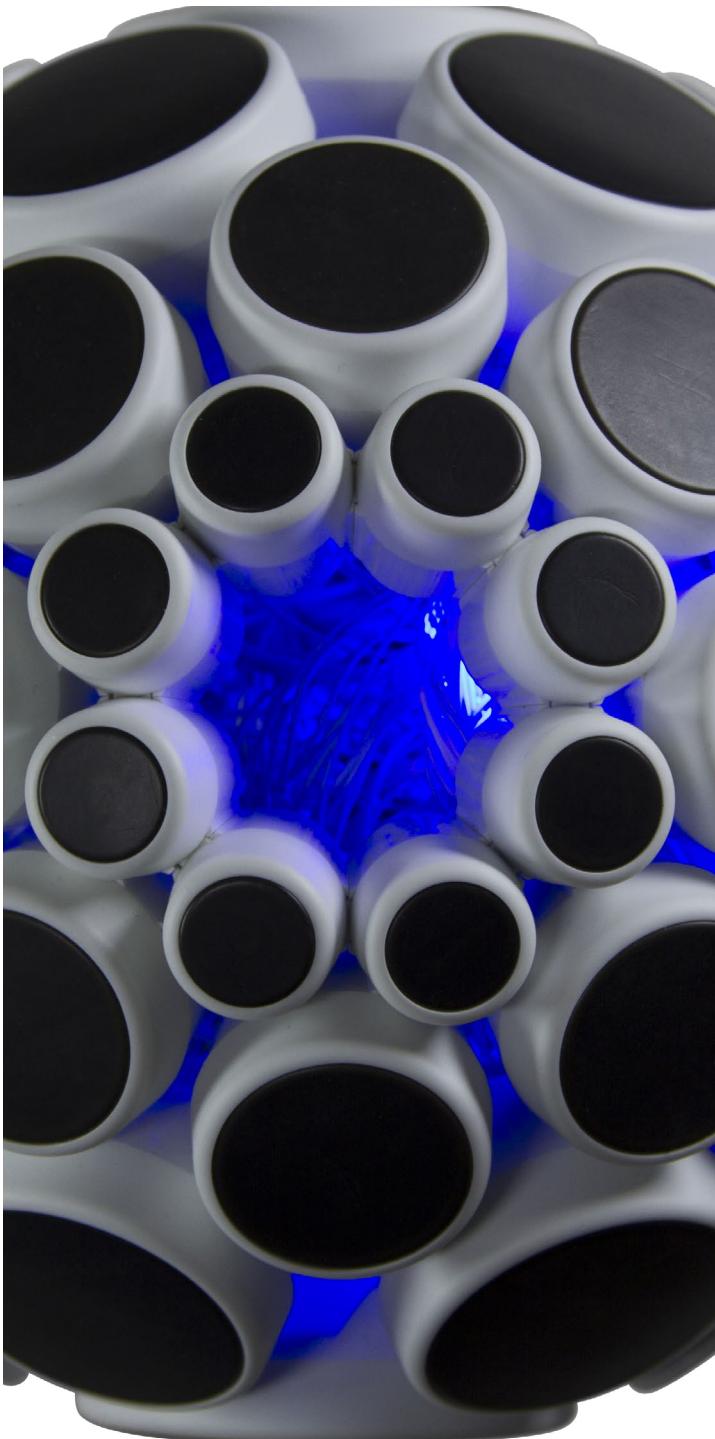
Musical Instrument Digital Interfaceの略であるMIDIは、電子楽器とコンピュータをつなぐ業界標準規格です。現在殆どの電子楽器と音楽ソフトウェアはMIDIに対応しておりコンピュータベースの音楽制作に欠かせないものとなっています。

音階を鳴らしたり音色を変更するための多くのコマンドによって成り立つ規格です。MIDIメッセージ自体は音声を直接生成しません。シンセサイザなどの楽器に対し、どの音をいつ鳴らすかの指示を出すだけのシンプルなメッセージです。AlphaLiveのMIDI機能を使うことで、お使いの音楽制作ソフトウェアやソフトウェア・シンセサイザをAlphaSphereで操作することができます。柔軟なカスタマイズが特徴です。

MIDIに関して本マニュアルでは以下の用語を使用しています:

- ノート番号 - MIDIノート番号は特定の鍵盤／周波数を示します。パッドにMIDIノート番号を設定すると特定の音程が発音されます。AlphaLiveは0～199(C-2～B7)のノート番号に対応します。中央のCが60になります。
- チャンネル - 通常DAWやMIDIシーケンサーでは個別のMIDIトラックや楽器／サウンド／ボーカルなどの單一トラックを「チャンネル」と呼びます。MIDIデータは音色の異なるノート・シーケンスを16チャンネル分内包することができます。AlphaSphereのパッドにMIDIチャンネルを設定することでDAWの特定のトラックに対してMIDIメッセージを送信することができます。
- ベロシティ - MIDIノートのゲイン／強度を表す数値です。MIDIベロシティ値の範囲は0～127です。
- ノート・イベント - サウンドの発音に関するMIDIメッセージです。ノートの発音開始を意味するノート・オン・メッセージです。特定のノート番号、チャンネル、ベロシティを指定できます。同様に発音終了を指示するメッセージはノート・オフといいます。AlphaLiveではMIDIモードのパッドを押したときや、MIDIシーケンサー・モードのパッド内のシーケンスによりノート・イベントが送信されます。
- アフタータッチ - AlphaSphereの肝となる機能の一つです。一般的なMIDI鍵盤の場合、アフタータッチは鍵盤が押し下げられてから離すまでの鍵盤の押し加減を表現するメッセージです。つまり押し下げた鍵盤のサウンドが減衰するまでの音色を変化させるMIDIメッセージです。アフタータッチにはポリフォニック・アフタータッチ(ポリ・プレッシャー)とチャンネル・アフタータッチ(チャンネル・プレッシャー)の2種類があります。ポリフォニック・アフタータッチは各ノートごとのアフタータッチ情報です。特定の鍵盤／パッドから発音された音色を変化させます。一方チャンネル・アフタータッチはトリガーされたノートのチャンネル全体の音色を変更することができます。AlphaSphereではパッドの深さ／圧力をアフタータッチ・データとして出力することができます。MIDIモードではポリ・アフタータッチがデフォルトの圧力設定となります。AlphaSphereは他のMIDIコントローラでは不可能な表現が可能ですが、しかし最近はアフタータッチ非対応のMIDI鍵盤も多いこともあり、全てのソフトウェア・シンセサイザがアフタータッチに対応しているわけではありません。
- コントロール・チェンジ／コンティニュアス・コントローラ／CC - コントロール・チェンジは128のコマンド／コントローラからなるメッセージです。「CC」と略称されます。多くの場合コントロール・データの送信に使用されます。MIDIの仕様では、どのCCコマンドが何を制御するかの大枠だけが定義されています。多くの場合DAWやソフトウェア・シンセサイザ側のMIDI CC ラーン機能などを用いて自由にアサインすることができます。一般的なMIDIコントローラの場合、CCコマンドはスライダ、ダイアル、ボタンにアサインされており、ボリューム、パン、トラックのソロ／ミュートなどのパラメータを制御するために使用されます。AlphaLiveではパッドの圧力によってCCメッセージが生成されます。eliteモデルの場合はダイアルとボタンによってもCCメッセージが生成されます。
- モジュレーション・ホイール - モジュレーション・ホイールは一般的なMIDIキーボードに搭載されるホイールです。通常モジュレーション・ホイールからはCCコントローラ番号1のMIDIメッセージが送信されます。殆どのDAWやMIDI機器ではCC1がモジュレーション・エフェクトにアサインされています。一般的なMIDIソフトウェアではモジュレーション・ホイール設定を自由に





変更可能です。AlphaSphereではパッド圧でモジュレーション・ホイール信号を送信することができます。

- ・ ピッチ・ベンド - ピッチ・ベンド・ホイールはモジュレーション・ホイールと共にMIDIキーボードに搭載されるコントローラです。MIDIノートのピッチを連続的に変更することができます。殆どのMIDI楽器はピッチ・ベンド幅を変更することが可能です。AlphaLiveではピッチ・ベンド・アップとピッチ・ベンド・ダウの2種類のメッセージをパッドにアサインできます。
- ・ MIDIファイル - MIDIファイル(.mid)はMIDIシーケンスとMIDIメッセージを格納したファイル形式です。大半のMIDIシーケンサーはMIDIファイルの読み込み／書き出しが可能です。ソフトウェア間またはユーザ間でのファイルのやりとりに便利です。AlphaLiveではMIDIシーケンサー・パッド内にMIDIファイルを読み込ませることができます。またパッド内のシーケンスをMIDIファイルとして書き出し、別のMIDIシーケンサーで読み込ませることも可能です。
- ・ プログラム・チェンジ・メッセージ - MIDIプログラム・チェンジ・メッセージはMIDI機器やソフトウェアのプログラム、パッチ、設定のプリセット、音色などの切り替えに用いられる信号です。AlphaLiveではコントローラ・モードでMIDIプログラム・チェンジ・メッセージを送信可能です。
- ・ MIDIシーケンサー - MIDIシーケンサーはMIDIノートやイベントのシーケンスの記録、表示、編集、再生を行うシステム／ソフトウェアです。
- ・ MIDI クロック - MIDI クロックは 複数のMIDI機器を同期させるための時間基準。受信及び送信によって、シーケンスの開始/停止などを行なうことができます。

MIDI クロックはテンポに依存するため、内部時間がサンプルや時間ではなく拍に基づいています。制御できる信号は下記の通り：

- ・ start - マスターからのクロック信号を受信してシーケンスを「ゼロ位置」からスタートします。
- ・ continue - クロック信号を「ゼロ位置」以外の位置からスタートします。
- ・ Stop - マスターからのクロック信号が無くなる

と、シーケンスが停止します。

・ Clock - 24パルスあたりの四分音符に同期して、マスターとスレーブの関係で動作。多くの場合、マスターの「テンポ」と同じスピードになります。

・ AlphaLiveはMIDIクロックのマスターまたはスレーブの両方にすることでき、この機能は「オプション」メニューまたは「プロジェクトの設定」セクションで設定できます。これはAlphaLive外部MIDIソフトウェア/ハードウェアの同期を制御することを可能にします。

お使いのMIDIソフトウェア、DAW、ソフトウェア・シンセサイザなどのMIDI機能に関しては、それぞれのマニュアルを参照してください。

## open sound control.

Open Sound Control(I 略称OSC)はコンピュータ、サウンド・シンセサイザー、マルチメディア・デバイス間でデータをリアルタイムにやりとりするために近年作られたネットワーク・プロトコルです。音楽機器やソフトウェア間をつなぐ規格という意味ではMIDIと似ていますが、OSCはMIDIと比べると、制限がなく、メッセージ名を判別しやすく、高解像度のデータを扱え、Wifiを含むネットワークを介してデータが転送でき、より精度の高い同期と高速なデータ・レートを実現するなどの多くのアドバンテージを特徴とします。しかしながら商業的な音楽制作ソフトウェアの業界ではいまだにMIDIがスタンダードなプロトコルとして使用されているのが現状です。。

OSCは現在Digital Performer、REAPER、Reaktor、VirtualDJなど多くのオーディオ・アプリケーションでサポートされています。またMax/MSP、Processing、Quartz Composerなどのメディア系ソフトウェアも対応するため、AlphaSphereを音楽用途以外でお使いいただくことも可能です。

AlphaLiveは2種類の項目を設定可能です。

- OSCポート・ナンバー - OSCメッセージが経由するUDP/TCPネットワークのポート番号を指定します。ポート番号は0～65535の中から選択可能です。多くの番号は他のアプリケーションすでに使われています。一つのポートを複数のアプリケーションが同時に使うことはできません。デフォルト設定ではAlphaLiveのポート番号は5004に設定されています。システムによっては使用できないためポート番号の変更が必要な場合もあります。
- OSC IPアドレス - OSCメッセージを送信するには送信先のIPアドレスを指定する必要があります。同一コンピューター内の別のアプリケーションに向けて送信する場合はIPアドレスを127.0.0.1と設定します。外部機器のIPアドレスを調べる方法は各コンピューター/デバイスのマニュアルを参照してください。

## その他

ASIO - ASIOはソフトウェアとサウンド・カード間のオーディオ録音/再生を低レイテンシーで実現するサウンド・カード・ドライバのプロトコルです。WindowsでAlphaLiveを使用する場合の推奨デバイスです。お使いのサウンド・カードがASIOをネイティブ・サポートしていない場合は汎用ASIOドライバとしてしられる「ASIO4ALL」を試してみると良いでしょう。

DAW - デジタル・オーディオ・ワークステーションはデジタル・オーディオの録音、編集、再生を行うためのシステム/アプリケーションです。MIDIシーケンス機能を搭載する場合もあります。最もポピュラーな商用DAWソフトウェアはLogic Pro、Cubase、Ableton live、Pro Tools、FL Studioが有名です。AlphaSphere/AlphaLiveのMIDI機能はこれらのメジャーなDAWで使用することができます。

DirectSound - Windows XPプラットフォームでオーディオを扱うデフォルトのプロトコルです。ASIOに比べシンプルでユーザ・フレンドリなのが特徴です。しかしASIOと異なりサウンド・カードと直接通信できないためレイテンシが大きく音質が劣るという欠点があります。設定できる項目もASIOほど多くありません。プロ用オーディオ・アプリケーションには一般的に不向きといわれています。

クオンタインズ - オーディオのクオンタインズとは設定されたテンポのグリッドに合わせてノートやサンプルの発音タイミングを修正する処理のことを指します。AlphaLiveではシーケンスの記録とMIDIファイルの読み込みときにシーケンス・ノートがクオンタインズされます。またパッドによるノート、サンプル、シーケンスのプレイバックのタイミングにもクオンタインズをかけることができます。

バーチャル/MIDIインストゥルメント - ソフトウェア・シンセサイザやソフトシンセなどと呼ばれるこれらのアプリケーションはMIDI入力を受けてリアルタイムにサウンドを出力します。MIDIインストゥルメントの多くはVSTi、Audio Unit、RTASプラグインのフォーマットを採用しておりDAWやMIDIシーケンス・ソフトウェア内で起動することができます。スタンドアローン・アプリケーションの形式で提供される場合もあります。

WASAPI - Windows Vista以降のOSでオーディオを扱うデフォルトのプロトコルです。Windows Audioと略して呼ばれることもあります。DirectSoundに比べると音質やレイテンシが改善しますが、プロ用の録音/再生に使用することを考えるとASIOにはまだ及びません。

## クレジット

リード・プログラマ - Liam Lacey

インターフェイス・デザイナ - Sam Davies

ドキュメント - Liam Lacey, Sam Davies.

コンセプト&プロトタイプ - Adam Place

貢献者 - Kaspar Bumke, Felix Godden, Richard de Lancey

オーディオ・サンプル提供:

Loopmasters

5Pin Media

Zero-G

Ali Lacey

バグの報告や意見の提案など開発を通して協力してくれた全てのアルファ&ベータ・テストに感謝します。

# 付録

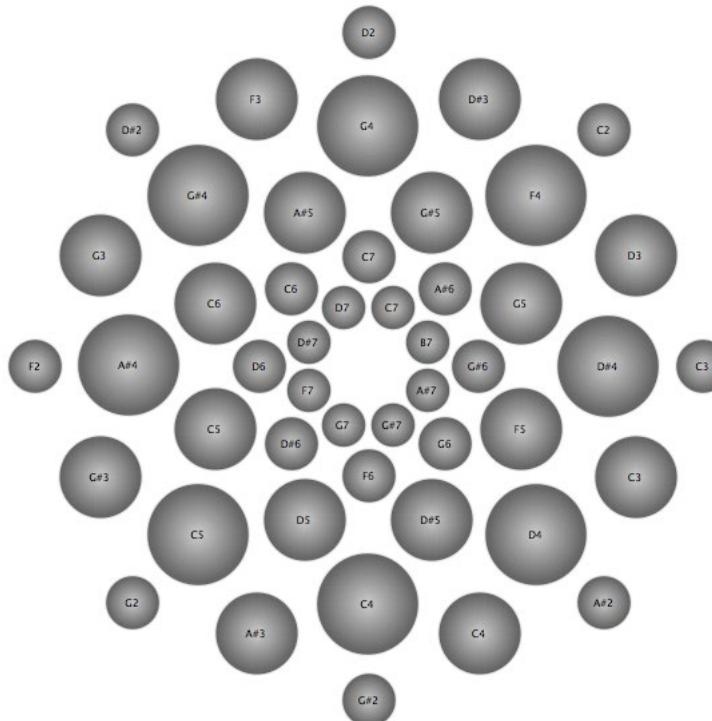


## ノート・レイアウト

ツールボックスのセクションでも解説しましたが、AlphaLiveにはAlphaSphereの全てのパッドをMIDIモードで使用するためのノート・マッピングのレイアウトが複数搭載されています。以下は搭載されるレイアウトの例です。パッドの配置はAlphaLiveのインターフェイスと同じです。C2のノートがルートとなります。

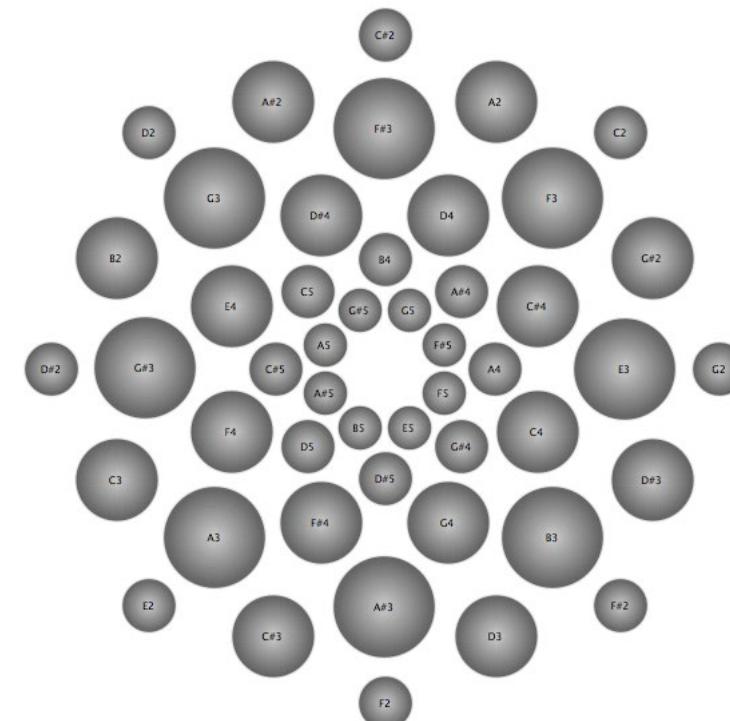
## スケール・レイアウト

メジャー、マイナーなどの一般的な音階に基づいたレイアウトです。各パッド列に同じオクターブのノートが並び、上の列ほど高いオクターブとなります。パッドの番号はスケールに沿って大きくなるように番号付けされています。反時計回りに音階が上がっていくため直感的な操作が可能です。以下はマイナー・スケールのレイアウトです：



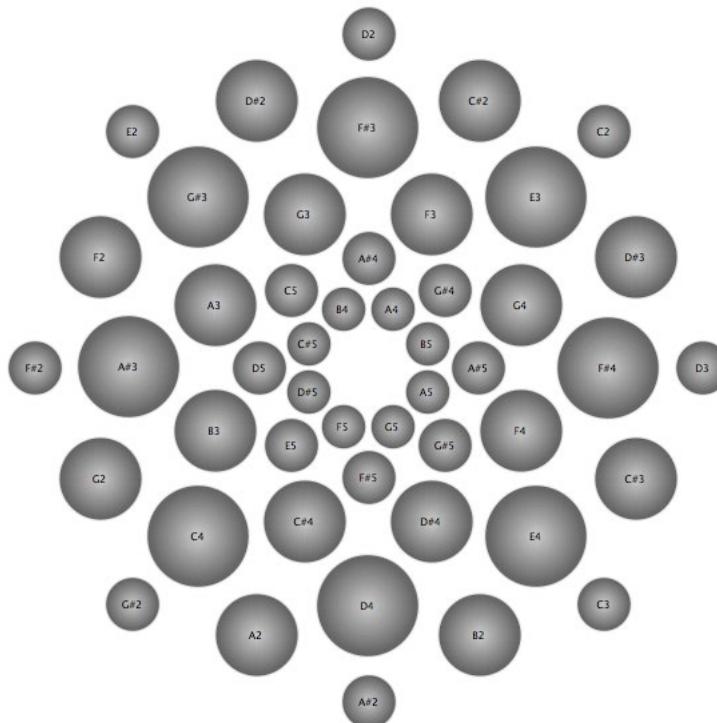
## クロマチック

クロマチック・レイアウトは4オクターブのクロマチック・スケールをAlphaSphereで再現したもので、パッド列の音階の最後のパッドの次のノートは上の列の左のパッドになります。



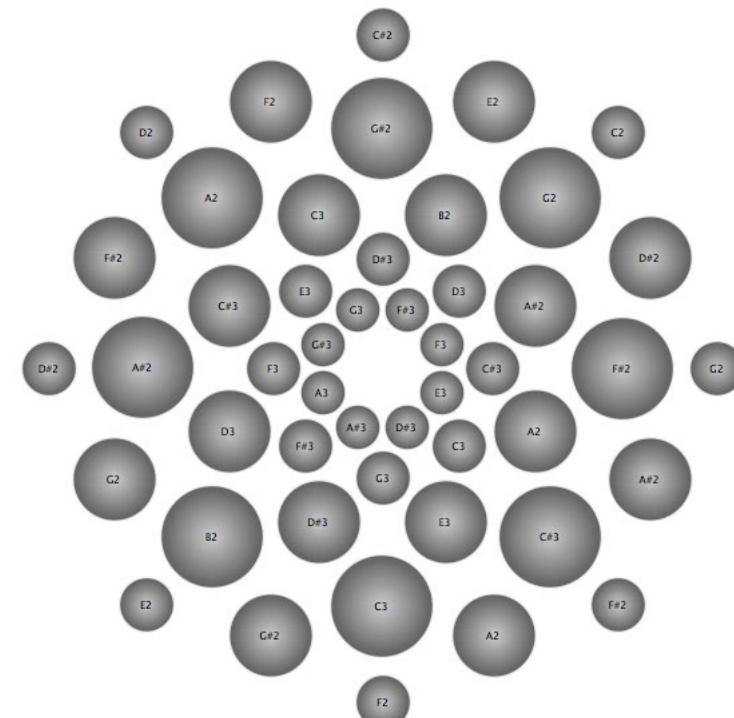
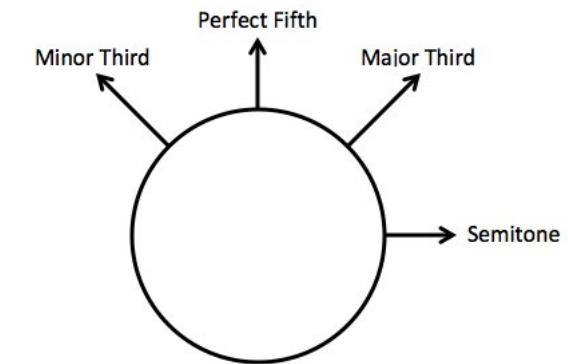
## クロマチック(2列)

クロマチック(2列)・レイアウトは音階が2列のパッドを使って上下ジグザグに進んでいくレイアウトです。あるパッドの次のノートは右上(上の列の右側)のパッドになり、その次のパッドは右下のパッドになります。



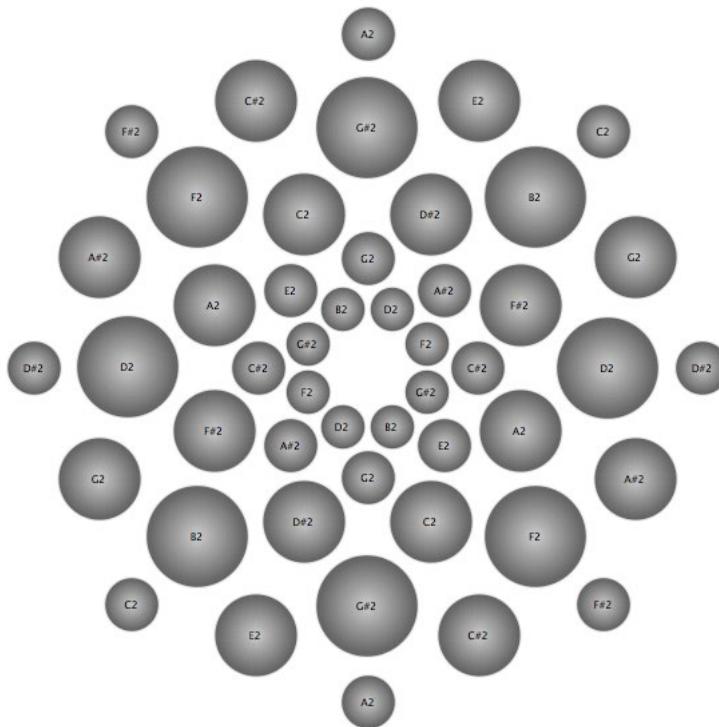
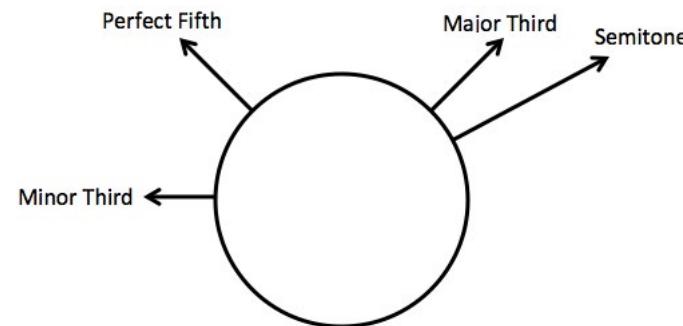
## ハーモニック・テーブル

ハーモニック・テーブルは通常の鍵盤と異なる配列を特徴とするレイアウトです。パッドの相対的な関係に基づいてノートが配置されています。パッド間の音程の関係は以下の図通りです:



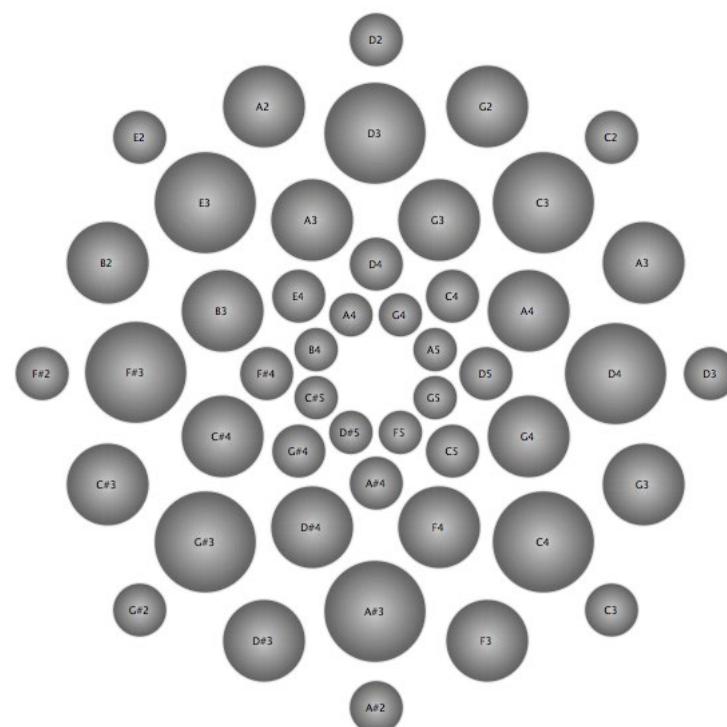
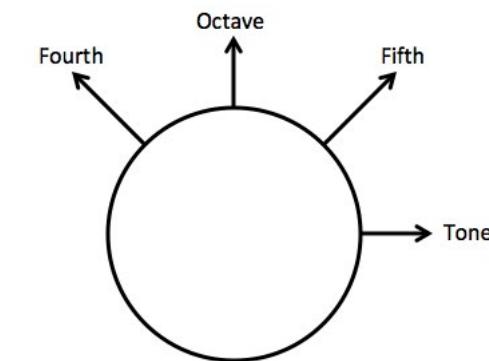
## ハーモニック・テーブル2

オリジナルのハーモニック・テーブルを改良したレイアウトです。パッド間の相対的な位置関係が若干異なります:



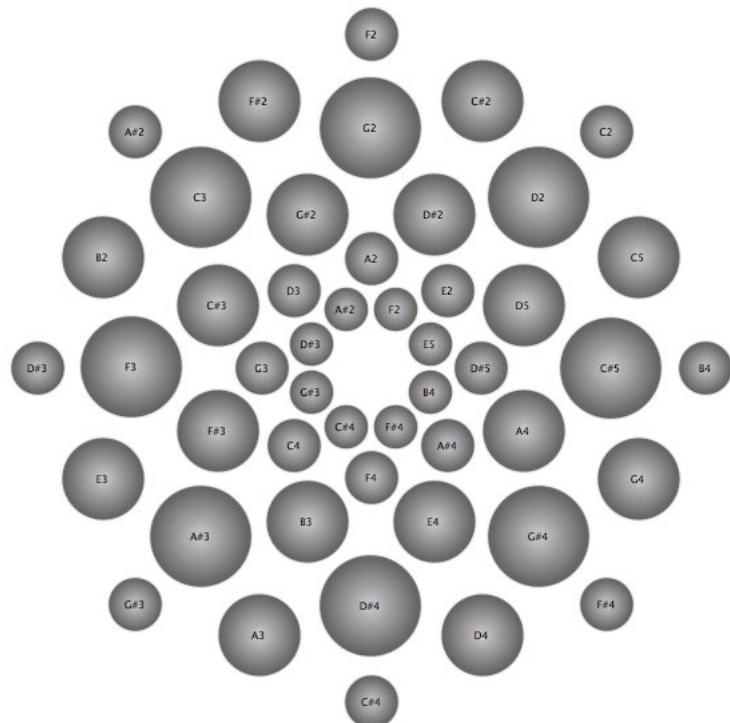
## wicki-hayden.

Wick-Haydenレイアウトは通常の鍵盤と異なる配列を特徴とするレイアウトです。パッド間の相対的な関係に基づいてノートが配置されています。パッド間の音程の関係は以下の図の通りです:



## Perfect Fourths (完全4度)

4度間隔でノートが並ぶレイアウトです。列が上がるにつれ半音ずつ音程が上がります。



## GMドラム・マッピング.

ツールボックスから選択可能なドラム・バンクはGMドラム・マッピングに準拠しています。これは外部MIDIソフトウェアやDAWとAlphaLiveを併用することを考えて作られています。AlphaLiveのドラム・マッピングはシーケンサー内のトラックの並び順、または選択されたサンプラー・パッドの番号順にマッピングされます:

MIDIノート番号	音色名
35	Kick 1
36	Kick 2
37	Rim Shot/Percussion/Sub-Hit
38	Snare 1
40	Snare 2
41	Low Tom/Mid Tom
42	Closed Hat/Percussion
45	Mid Tom/High Tom
46	Open Hat/Percussion
48	High Tom/Percussion
49	Crash/Cymbal
51	Splash/Ride/Cymbal

## Open Sound Controlアドレス設定

AlphaLiveは任意のパッドからOSCデータを送信することができます。OSCデータを送信するにはパッドをコントローラ・モードにして「OSCメッセージ」ボタンを押してください。eliteモデルの場合、ダイアルとボタンからもOSCメッセージを送信可能です。送信できるOSCアドレスは以下の通りです:

/alpha [パッド番号] [パッド圧] [パッド・ベロシティ]  
/alpha [eliteコントロール番号] [elite コントロール値]

引数には以下の範囲の数値を入れることができます。

パッド番号 - 1~48

パッド圧 - 0~511

パッド・ベロシティ - 0~127

eliteコントロール番号 - 101~102(ダイアル), 103~105(ボタン)

elite コントロール値 - 0~1(ダイアル), 103~105(ボタン)

## MIDI入力メッセージ

AlphaSphere/AlphaLiveを外部からコントロールするために、いくつかのMIDI メッセージを用意しています。

MIDI Message	Functions	Message Values	Edit Function Locations
Clock	Sync AlphaLive's clock to an external MIDI device. Make the AlphaSphere LED flash in sync to an external source.	-	Project Settings -> Software Settings Project Settings -> Hardware Settings
Clock Start	Start AlphaLive's clock using an external MIDI device. Start the LED Clock Interaction Mode.	-	Project Settings -> Software Settings Project Settings -> Hardware Settings
Clock Continue	Start AlphaLive's clock using an external MIDI device. Start the LED Clock Interaction Mode.	-	Project Settings -> Software Settings Project Settings -> Hardware Settings
Clock Stop	Stop AlphaLive's clock using an external MIDI device. Stop the LED Clock Interaction Mode.	-	Project Settings -> Software Settings Project Settings -> Hardware Settings
Program Change	Select scenes within AlphaLive	1 – 20 (if given 128 programs to choose from) or 0 – 19 (if given 127 programs to choose from) to select scenes 1 – 20 respectively.	Project Settings -> Software Settings
Control Change/CC 20, Channel 16	Enables/Disables the LED MIDI CC Control Mode	0: Disable 1 – 127: Enable	Project Settings -> Hardware Settings
Control Change/CC 21, Channel 16	Controls the red value of the AlphaSphere LED	0 – 127: Brightness (0 being off, 127 being full brightness)	Project Settings -> Hardware Settings
Control Change/CC 22, Channel 16	Controls the green value of the AlphaSphere LED	0 – 127: Brightness (0 being off, 127 being full brightness)	Project Settings -> Hardware Settings
Control Change/CC 23, Channel 16	Controls the blue value of the AlphaSphere LED	0 – 127: Brightness (0 being off, 127 being full brightness)	Project Settings -> Hardware Settings

<b>abbreviation</b>	<b>setting name / value</b>
midi mode	
Ch	Channel
Dyn	Dynamic MIDI Channel Mode
N	Note name/number/status
P	Pressure mode/status
PAT	Polyphonic aftertouch
CAT	Channel aftertouch
MW	Mod wheel
CC	CC/Control change
PBU	Pitch bend up
PBD	Pitch bend down
sample mode	
P	Pressure status/effect
G&P	Gain and pan effect
LPF	Low pass filter
HPF	High pass filter
BPF	Band pass filter
Di	Distortion
Bi	Bitcrusher
De	Delay
Re	Reverb
Fl	Flanger
Tr	Tremolo

<b>abbreviation</b>	<b>setting name / value</b>
sequencer mode	
M	Sequencer Mode
M	MIDI Sequencer Mode
Ch	MIDI Channel
P	Pressure mode/status/ effect
CAT	Channel aftertouch
MW	Mod wheel
CC	CC/Control change
PBU	Pitch bend up
PBD	Pitch bend down
S	Sequencer Sample Mode
G&P	Gain and pan effect
LPF	Low pass filter
HPF	High pass filter
BPF	Band pass filter
Di	Distortion
Bi	Bitcrusher
De	Delay
Re	Reverb
Fl	Flanger
Tr	Tremolo
global settings	
Ex	Exclusive Group Number

<b>abbreviation</b>	<b>setting name / value</b>
controller mode	
SS	Scene Switch Mode
S	Scene Number
PC	MIDI Program Change Mode
P	MIDI Program Change Number
Ch	MIDI Channel
OSC	Open Sound Control Mode
P	OSC Port Number
Kill	Killswitch
PL	Pressure Latch
P	Pressure Latch Pad Number
LED	LED Mode, LED Status
P	LED Pressure Status
C	LED Clock Status
MIDI	LED MIDI CC Control Mode

## pad contents display abbreviation reference.

If the 'View -> Display Pad Contents on Pads' option is enabled, the pads in the Pad Layout section within AlphaLive will each display a list of its current contents using the following set of abbreviations:

<b>option / control</b>	<b>mac os x shortcut</b>	<b>windows shortcut</b>
Apple Menu		
Preferences	cmd + ,	ctrl + ,
Quit AlphaLive	cmd + Q	ctrl + Q
File Menu		
New	cmd + N	ctrl + N
Open	cmd + O	ctrl + O
Save	cmd + S	ctrl + S
Save As	shift + cmd + S	shift + ctrl + S
Project Settings	shift + cmd + P	shift + ctrl + P
Edit Menu		
Copy Pad Settings	cmd + C	ctrl + C
Paste Pad Settings	cmd + V	ctrl + V
View Menu		
Show Pads Touch/Trigger Settings	cmd + 1	ctrl + 1
Show Pads Pressure Settings	cmd + 2	ctrl + 2
Show Pads Global Settings	cmd + 3	ctrl + 3
Show Pads Sequence Settings	cmd + 4	ctrl + 4
Display Pad Contents on Pads	alt + cmd + O	alt + ctrl + O

## keyboard shortcuts.

AlphaLive contains many keyboard shortcuts linked to most of the options available the menu bar. The following table lists all the available shortcuts.

<b>option / control</b>	<b>mac os x shortcut</b>	<b>windows shortcut</b>
Controls Menu		
Killswitch	cmd + K	ctrl + K
Start/Stop Clock	Space bar	Space bar
Hardware Menu		
Enable LED MIDI CC Control	alt + cmd + M	alt + ctrl + M
Enable LED	alt + cmd + L	alt + ctrl + L
Enabled LED Pressure Interaction	alt + cmd + P	alt + ctrl + P
Enabled LED Clock Interaction	alt + cmd + C	alt + ctrl + C